

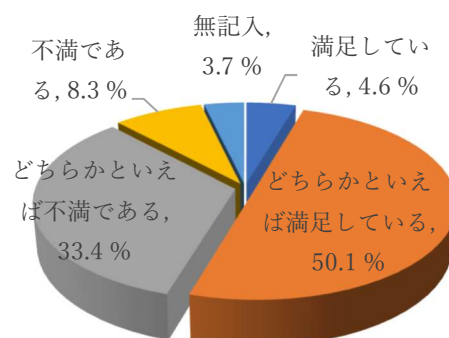
## 第3章 集計結果

### 1 市政に対する満足度

#### (1) 市民生活分野

##### 問1 地域コミュニティ活動が活性化している

No.	項目	回答数
1	満足している	42名
2	どちらかといえば満足している	459名
3	どちらかといえば不満である	306名
4	不満である	76名
	無記入	34名



「満足している」「どちらかといえば満足している」と回答した方が54.7%に対し、「どちらかといえば不満である」「不満である」と回答した方は41.7%と、不満度よりも満足度が高い結果となりました。

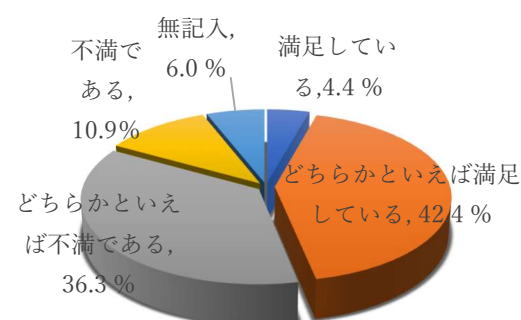
年代別で大きな違いはありませんでしたが、地区別の満足度は、最も高い地区の稲井地区が69%に対し、石巻地区・北上地区は55%と低い結果となりました。

住まいの状況別では、復興公営住宅の方が57%、自宅（持家）の方が56%に対し、借家（アパート）と公営住宅（市営、県営）の方は46%と低くなっており、地区や住まいの状況で満足度に差が出る結果となりました。

人口減少、少子高齢化が進むなかで、地域においては自治会等の担い手不足が大きな課題となっており、地域の主体的な活動を促し、行政と市民との協働のまちづくりを目指して、地域の人材やノウハウ等を活かした住民自治組織の設立及び活動を支援する必要があると考えます。

##### 問2 移住・定住に対する施策が充実している

No.	項目	回答数
1	満足している	40名
2	どちらかといえば満足している	389名
3	どちらかといえば不満である	333名
4	不満である	100名
	無記入	55名



「満足している」「どちらかといえば満足している」と回答した方が46.8%に対し、「どちらかといえば不満である」「不満である」と回答した方は47.2%と、満足度よりも不満度が若干高い結果となりました。

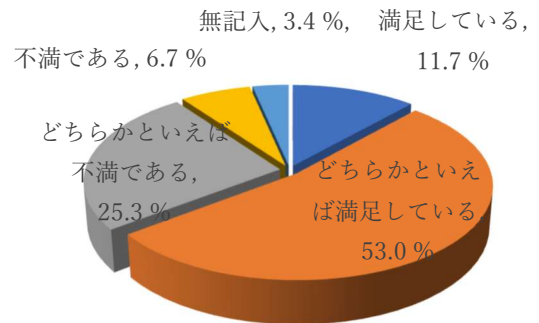
年代別の満足度は、18～29歳が60%に対し、40代は47%、50代は46%と低い結果となりました。

地区別では、最も高い地区の河北地区が61%に対し、湊・渡波地区は43%と低くなっており、年代や地区で満足度に差が出る結果となりました。

現在実施している移住定住施策の見直しを図り、住みたい・住み続けたいと思ってもらえる施策を検討する必要があると考えます。

### 問3 地域の防災対策が推進されている

No.	項目	回答数
1	満足している	107名
2	どちらかといえば満足している	486名
3	どちらかといえば不満である	232名
4	不満である	61名
	無記入	31名



「満足している」「どちらかといえば満足している」と回答した方が64.7%に対し、「どちらかといえば不満である」「不満である」と回答した方は32%と、不満度よりも満足度が高い結果となりました。

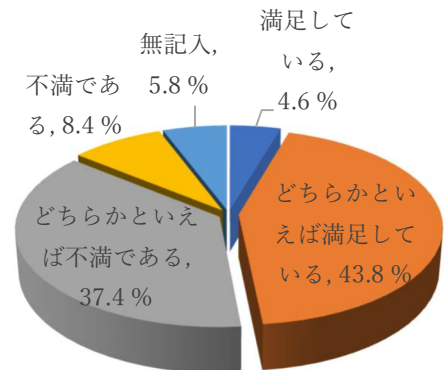
年代別の満足度は、40代までが70%～80%に対し、50代～80代は60%代と低い結果となりました。

地区別では、稲井地区と桃生地区が75%、蛇田地区が73%、河南地区が72%に対し、湊・渡波地区は62%、石巻地区は63%と低くなっており、年代や東日本大震災で被災した地区と被災していない地区で満足度に差が出る結果となりました。

今後も自主防災組織の新規設立や育成強化を進めるとともに、更なる防災対策の向上を図るため、地域に応じた防災対策を市民と行政等が連携して取り組む必要があると考えます。

### 問4 男女共同参画社会が推進されている

No.	項目	回答数
1	満足している	42名
2	どちらかといえば満足している	402名
3	どちらかといえば不満である	343名
4	不満である	77名
	無記入	53名



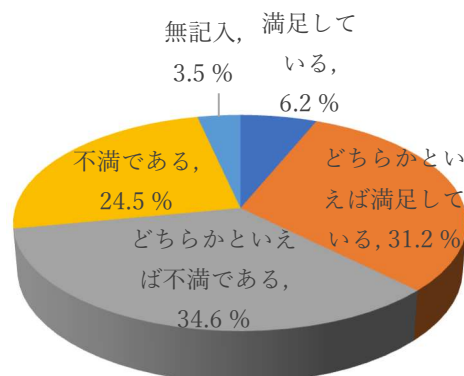
「満足している」「どちらかといえば満足している」と回答した方が48.4%に対し、「どちらかといえば不満である」「不満である」と回答した方は45.8%と、不満度よりも満足度が若干高い結果となりました。

男性と女性の満足度に差はほぼない結果となったが、年代別では、40代までは70%～80%に対し、50代以上は60%と低くなっており、年代で満足度に差が出る結果となりました。

今後も石巻市男女共同参画基本計画（第4次）に基づく各種施策を着実に実施し、男女が社会の対等な構成員として、共に参画できる社会の実現に向けて取り組む必要があると考えます。

問5 公共交通ネットワークが整備されている

No.	項目	回答数
1	満足している	57名
2	どちらかといえば満足している	286名
3	どちらかといえば不満である	317名
4	不満である	225名
	無記入	32名



「満足している」「どちらかといえば満足している」と回答した方が37.4%に対し、「どちらかといえば不満である」「不満である」と回答した方は59.1%と、満足度よりも不満度が高い結果となりました。

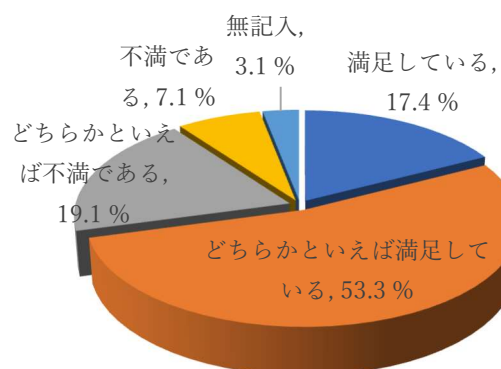
年代別の満足度は、18～29歳が48%に対し、40代は34%と低い結果となりました。

地区別では、牡鹿地区が64%、北上地区が55%に対し、河南地区は31%と低くなっており、年代や地区で満足度に差が出る結果となりました。

このため、石巻市総合交通計画に基づく各種施策を着実に実施していくことで、より利用しやすい公共交通の実現に努めていく必要があると考えます。

問6 震災を後世に伝える取組が推進されている

No.	項目	回答数
1	満足している	160名
2	どちらかといえば満足している	489名
3	どちらかといえば不満である	175名
4	不満である	65名
	無記入	28名



「満足している」「どちらかといえば満足している」と回答した方が70.7%に対し、「どちらかといえば不満である」「不満である」と回答した方は26.2%と、不満度よりも満足度が高い結果となりました。

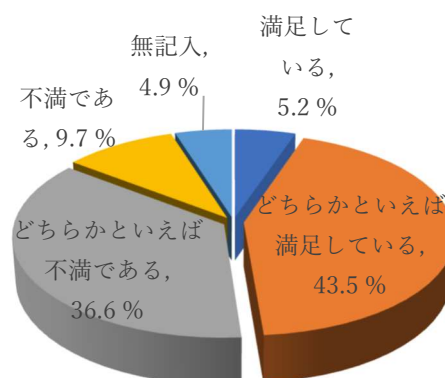
地区別の満足度に大きな違いはありませんでしたが、年代別の満足度では、18～29歳が93%に対し、50代は65%と低くなっており、年代で満足度に差が出る結果となりました。

最大の被災地として、100%に近い市民に震災伝承の取組について満足していただけるよう関係団体等と連携して取り組む必要があると考えます。

## (2) 環境分野

### 問7 環境保全対策が充実している

No.	項目	回答数
1	満足している	48名
2	どちらかといえば満足している	399名
3	どちらかといえば不満である	336名
4	不満である	89名
	無記入	45名



「満足している」「どちらかといえば満足している」と回答した方が48.7%に対し、「どちらかといえば不満である」「不満である」と回答した方は46.3%と、不満度よりも満足度が若干高い結果となりました。

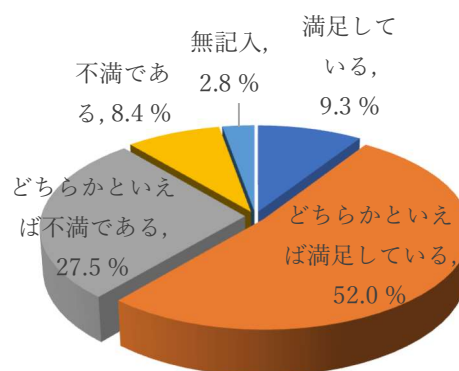
年代別の満足度は、18～29歳が72%、80歳以上が58%に対し、30代、50代、60代は47%と低い結果となりました。

地区別の満足度は、最も高い地区の桃生地区が63%に対し、石巻地区は47%と低くなっており、年代や地区で満足度に差が出る結果となりました。

今後も様々な環境問題に取り組みながら環境保全活動を行い、満足度の向上に努める必要があると考えます。

### 問8 ごみの減量化・リサイクルが推進されている

No.	項目	回答数
1	満足している	85名
2	どちらかといえば満足している	477名
3	どちらかといえば不満である	252名
4	不満である	77名
	無記入	26名



「満足している」「どちらかといえば満足している」と回答した方が61.3%に対し、「どちらかといえば不満である」「不満である」と回答した方は46.3%と、不満度よりも満足度が高い結果となりました。

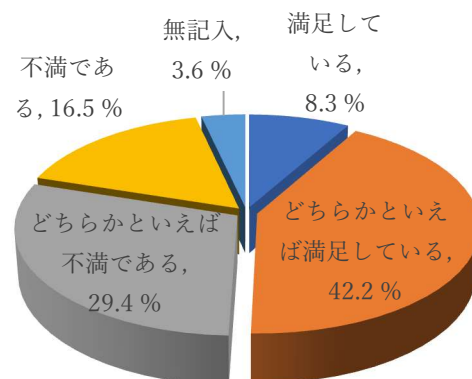
前回(令和元年度)の調査では、「満足している」「どちらかといえば満足している」と回答した方が71.0%だったため、前回調査の満足度を下回っています。

地区別で大きな差はなかったが、年代別の満足度では、18～29歳が82%に対し、40代は52%と低くなっており、年代で満足度に差が出る結果となりました。

今後も分別の徹底によるごみの減量化・再資源化を推進する必要があると考えます。

問9 住環境と都市機能の整備が推進されている

No.	項目	回答数
1	満足している	76名
2	どちらかといえば満足している	387名
3	どちらかといえば不満である	270名
4	不満である	151名
	無記入	33名



「満足している」「どちらかといえば満足している」と回答した方が50.5%に対し、「どちらかといえば不満である」「不満である」と回答した方は45.9%と、不満度よりも満足度が高い結果となりました。

年代別の満足度は、18～29歳が62%、70代が57%に対し、40代は45%、50代は49%と低い結果となりました。

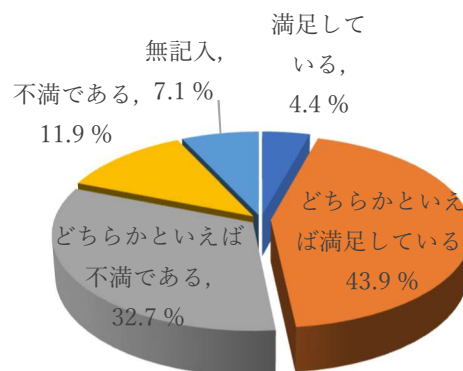
地区別の満足度は、蛇田地区が56%、石巻地区と湊・渡波地区が53%に対し、河南地区は49%、河北地区は44%と低くなっており、年代や地区で満足度に差が出る結果となりました。

今後もより一層安全安心な住環境と都市機能の整備を推進する必要があると考えます。

### (3) 保健福祉分野

問10 妊娠・出産・子育てができる環境が充実している

No.	項目	回答数
1	満足している	40名
2	どちらかといえば満足している	403名
3	どちらかといえば不満である	300名
4	不満である	109名
	無記入	65名



「満足している」「どちらかといえば満足している」と回答した方が48.3%に対し、「どちらかといえば不満である」「不満である」と回答した方は44.6%と、不満度よりも満足度が若干高い結果となりました。

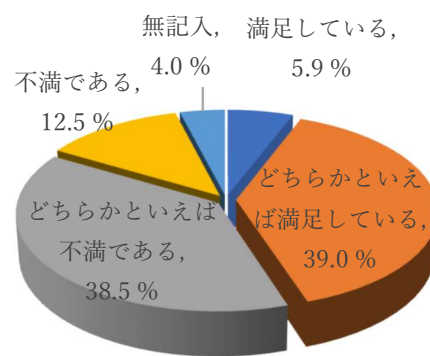
年代別の満足度は、60代以上では半数を超えているのに対し、18～29歳は46%、30代は38%、40代は42%、50代は50%と、特に子育て世代では低い結果となりました。

地区別の満足度は、最も高い地区の北上地区が70%に対し、雄勝地区は22%と低くなっており、年代や地区で満足度に差が出る結果となりました。

今後も安心して妊娠・出産・子育てができる環境を一層充実させる必要があると考えます。

問11 高齢者福祉が充実している

No.	項目	回答数
1	満足している	54名
2	どちらかといえば満足している	358名
3	どちらかといえば不満である	353名
4	不満である	115名
	無記入	37名



「満足している」「どちらかといえば満足している」と回答した方が44.9%に対し、「どちらかといえば不満である」「不満である」と回答した方は51%と、満足度よりも不満度が高い結果となりました。

地区別の満足度に大きな違いはなかったが、年代別では18～29歳が67%に対し、60代は40%と低くなっており、年代で満足度に差が出る結果となりました。

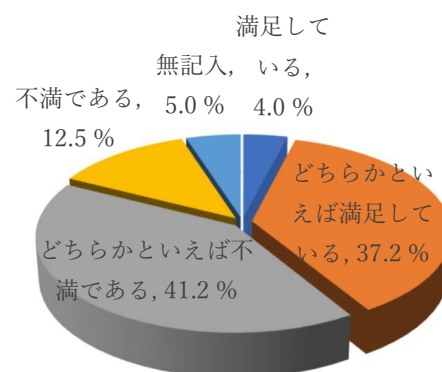
令和3年度の調査では、「満足している」「どちらかといえば満足している」と回答した方が48.2%となっており、3.3%減少しているが、これは新型コロナウイルスの影響により、高齢者に対する生きがいや健康づくり事業が中止、縮小となったことに原因があると思われます。

高齢者が充実した生活を送ることができるように各種事業への参加を周知啓発し、コロナ禍で参加者が減少する前の状況に戻るよう支援していく必要があると考えます。



### 問12 障害者にやさしいまちづくりが推進されている

No.	項目	回答数
1	満足している	37名
2	どちらかといえば満足している	341名
3	どちらかといえば不満である	378名
4	不満である	115名
	無記入	46名



「満足している」「どちらかといえば満足している」と回答した方が41.2%に対し、「どちらかといえば不満である」「不満である」と回答した方は53.7%と、満足度よりも不満度が高い結果となりました。

年代別の満足度は、18～29歳が60%に対し、50代は38%と低い結果となりました。

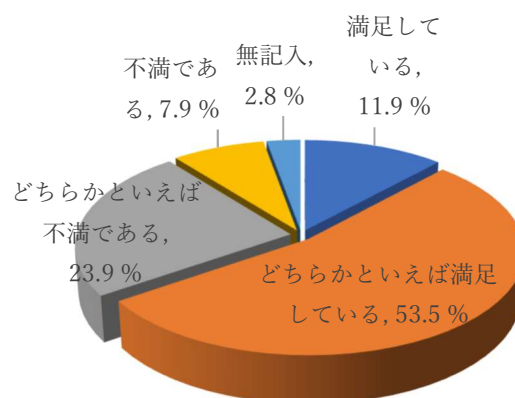
地区別では、最も高い地区の北上地区が70%に対し、雄勝地区は20%と低くなっており、年代や地区で満足度に差が出る結果となりました。

障害者にやさしいまちづくりについて考えた際に、障害のある人の社会参加があまり見受けられない、または参加をされていても参加しづらい状況であったことから、不満へと繋がったと推測されます。

障害のある人の社会参加促進のため、支援体制を一層強化する必要があると考えます。

### 問13 心と体の健康づくりが推進されている

No.	項目	回答数
1	満足している	109名
2	どちらかといえば満足している	491名
3	どちらかといえば不満である	219名
4	不満である	72名
	無記入	26名



「満足している」「どちらかといえば満足している」と回答した方が65.4%に対し、「どちらかといえば不満である」「不満である」と回答した方は31.8%と、不満度よりも満足度が高い結果となりました。

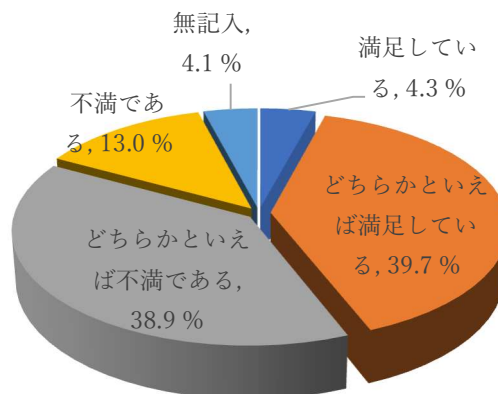
年代別の満足度では、18～29歳と70代が75%に対し、50代は55%と低い結果となりました。

地区別では、最も高い地区の桃生地区が77%に対し、雄勝地区は50%と低くなっており、年代や地区で満足度に差が出る結果となりました。

今後も安心して相談ができる体制づくりに努めていき、市民一人ひとりが自分自身を大切に、自分に合ったところと体の健康づくりを推進する必要があると考えます。

問14 地域で支えあいが行なわれている

No.	項目	回答数
1	満足している	39名
2	どちらかといえば満足している	364名
3	どちらかといえば不満である	357名
4	不満である	119名
	無記入	38名



「満足している」「どちらかといえば満足している」と回答した方が44%に対し、「どちらかといえば不満である」「不満である」と回答した方は51.9%と、満足度よりも不満度が高い結果となりました。

年代別の満足度は、18歳～29歳が58%に対し、30代と50代は39%と低い結果となりました。

地区別では、最も高い地区の桃生地区が54%に対し、湊・渡波地区は40%と低くなっており、年代や地区で満足度に差が出る結果となっていることから、関係性の希薄化等により、身近な地域の助け合いや支え合いが実感できない現状があると思われます。

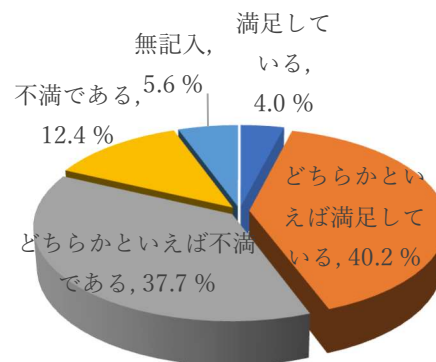
困っている人を地域住民が互いに助け合い、支え合うという貴い価値観が失われないよう、地域住民による互助活動の促進や次代の担い手である子ども達に対する福祉教育等が必要であると考えます。



## (4) 産業分野

問15 商工業振興策が充実している

No.	項目	回答数
1	満足している	37名
2	どちらかといえば満足している	369名
3	どちらかといえば不満である	346名
4	不満である	114名
	無記入	51名



「満足している」「どちらかといえば満足している」と回答した方が44.2%に対し、「どちらかといえば不満である」「不満である」と回答した方は50.1%と、満足度よりも不満度が高い結果となりました。

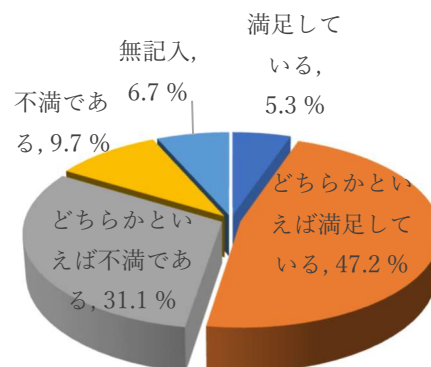
年代別の満足度は、18歳～29歳が68%に対し、50代は35%と低い結果となりました。

職業別の満足度は、学生が7割以上に対し、自営業、派遣・契約社員は4割未満と低く、年代や職業で差が出る結果となりました。

今後も商工会議所や商工会をはじめとする関係機関と連携し、商工業振興策の充実度を高める支援策に取り組む必要があると考えます。

問16 水産振興策が充実している

No.	項目	回答数
1	満足している	49名
2	どちらかといえば満足している	433名
3	どちらかといえば不満である	285名
4	不満である	89名
	無記入	61名



水産振興策の充実について、「満足している」「どちらかといえば満足している」と回答した方が52.5%に対し、「どちらかといえば不満である」「不満である」と回答した方は40.8%と、不満度よりも満足度が高い結果となりました。

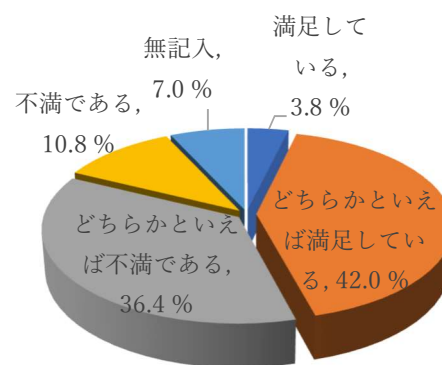
年代別の満足度は、18～29歳が80%に対し、50代は47%と低い結果となりました。

職業別では、団体職員や学生が80%台に対し、派遣・契約社員は37%と低くなっており、年代や職業で満足度に差が出る結果となりました。また、農林水産業（自営業）は55%と全体の数値よりも若干満足度が高い結果となっています。

今後も水産振興策の一層の充実を図っていく必要があると考えます。

### 問17 農林畜産振興策が充実している

No.	項目	回答数
1	満足している	35名
2	どちらかといえば満足している	385名
3	どちらかといえば不満である	334名
4	不満である	99名
	無記入	64名



「満足している」「どちらかといえば満足している」と回答した方が45.8%に対し、「どちらかといえば不満である」「不満である」と回答した方は47.2%と、満足度よりも不満度が若干高い結果となりました。

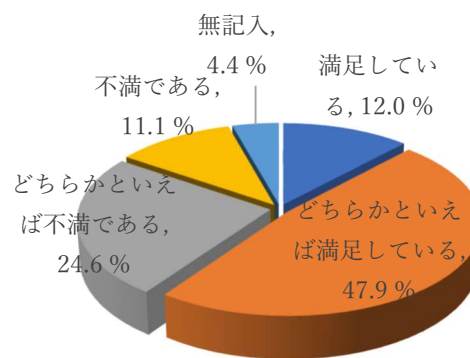
年代別の満足度は、18～29歳が69%、80代以上が57%に対し、50代は41%と低い結果となりました。

職業別では、農林水産業（自営業）が30%と低くなっているが、本市で行っている農林畜産振興策は、特定の農林業者向けの事業となっていることから、7割が不満という評価となっていると考えられます。また、本市は主食用米の生産が基幹となっていますが、需要の低迷により生産面積を調整するなどの対策を行っていることが、低い評価の要因であると考えられます。

農林畜産物は、需要に応じた生産が求められることが多いことから、主食用米から野菜などの生産への転換等を進めるなど、農林畜産業の活性化に向けた施策に取り組む必要があると考えます。

### 問18 観光振興策が充実している

No.	項目	回答数
1	満足している	110名
2	どちらかといえば満足している	439名
3	どちらかといえば不満である	226名
4	不満である	102名
	無記入	40名



「満足している」「どちらかといえば満足している」と回答した方が59.9%に対し、「どちらかといえば不満である」「不満である」と回答した方は35.7%と、不満度よりも満足度が高い結果となりました。祭りイベントの開催や地元食材等の活用、各種補助制度に関し、概ね市民に評価をいただいているものと考えられます。

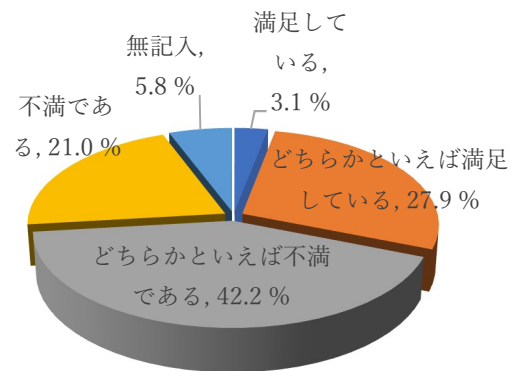
年代別の満足度は、70代が70%、80歳以上が72%に対し、40代は52%、50代は54%と低い結果となりました。

地区別では、一部を除き各地区とも満足している割合が多いが、各総合支所地区においては不満足の高割合が比較的大きくなる傾向があり、特に雄勝地区では、満足と不満が逆転しており、年代や地区で満足度に差が出る結果となりました。

今後は30代から50代の子育て世代及び地域バランスを考慮した施策に取り組む必要があると考えます。

### 問 1 9 新たな雇用が創出されている

No.	項 目	回答数
1	満足している	28 名
2	どちらかといえば満足している	256 名
3	どちらかといえば不満である	387 名
4	不満である	193 名
	無記入	53 名



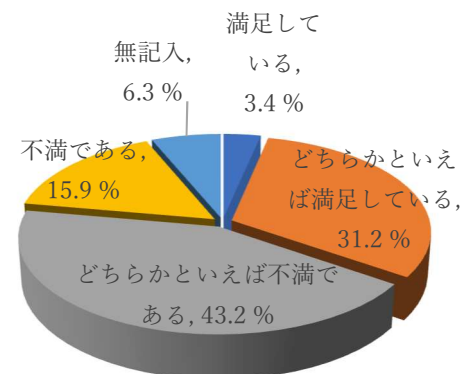
「満足している」「どちらかといえば満足している」と回答した方が 3.1% に対し、「どちらかといえば不満である」「不満である」と回答した方は 63.2% と、満足度よりも不満度が高い結果となりました。

年代別の満足度に大きな差はありませんでしたが、職業別では、商工サービス業（家族従業者）が 75% に対し、派遣・契約社員は 21% と低くなっており、職業で満足度に差が出る結果となりました。

今後も企業誘致を積極的に推進するほか、新たな雇用の創出が図られるよう関係機関と連携し取り組む必要があると考えます。

### 問 2 0 未来の産業を担う人材の確保と育成に関する取組が充実している

No.	項 目	回答数
1	満足している	31 名
2	どちらかといえば満足している	286 名
3	どちらかといえば不満である	396 名
4	不満である	146 名
	無記入	58 名



「満足している」「どちらかといえば満足している」と回答した方が 34.6% に対し、「どちらかといえば不満である」「不満である」と回答した方は 59.1% と、満足度よりも不満度が高い結果となりました。

年代別の満足度は、18～29歳が 50% に対し、40代は 27%、50代は 29% と低い結果となりました。

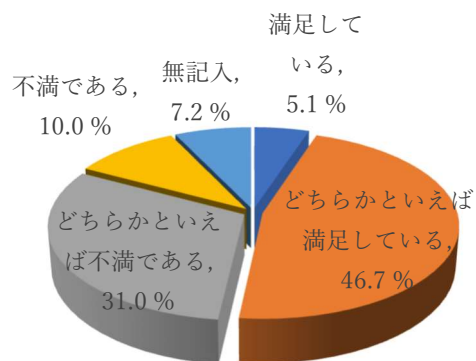
職業別では、学生が 60% に対し、商工サービス業（自営業）は 16%、派遣・契約社員は 13% と低くなっており、年代や職業で満足度に差が出る結果となりました。

今後も関係機関と連携し、未来の産業を担う人材の確保と育成に関する取組の充実度を高める支援策に取り組む必要があると考えます。

## (5) 教育分野

### 問 2 1 安全安心な教育環境が整備されている

No.	項 目	回答数
1	満足している	47名
2	どちらかといえば満足している	428名
3	どちらかといえば不満である	284名
4	不満である	92名
	無記入	66名



「満足している」「どちらかといえば満足している」と回答した方が51.8%に対し、「どちらかといえば不満である」「不満である」と回答した方は41%と、不満度よりも満足度が高い結果となりました。

年代別の満足度は、80代が69%に対し、30代は49%、40代は42%と子育て世代で低い結果となりました。

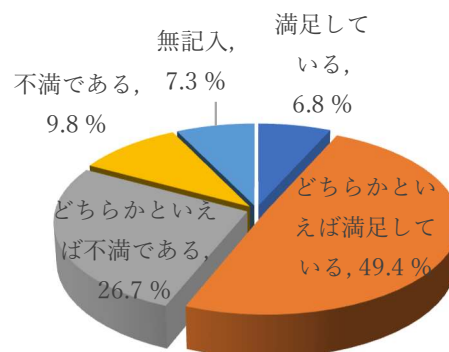
地区別では、最も高い地区の桃生地区が68%に対し、石巻地区は53%と低くなっており、年代や地区で満足度に差が出る結果となりました。

また、令和3年度の調査での満足度は50.3%だったのに対し、今回51.8%と微増しました。

学校施設整備は、保全計画に基づく長寿命化改修1校目の施工中であり、まだ目に見えた成果が見られないことから伸び悩んでいるものと考えられます。

### 問 2 2 学校教育が充実している

No.	項 目	回答数
1	満足している	62名
2	どちらかといえば満足している	453名
3	どちらかといえば不満である	245名
4	不満である	90名
	無記入	67名



「満足している」「どちらかといえば満足している」と回答した方が56.2%に対し、「どちらかといえば不満である」「不満である」と回答した方は36.5%と、不満度よりも満足度が高い結果となりました。

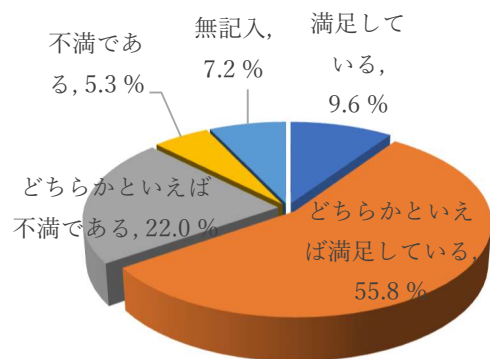
年代別の満足度は、70代が72%に対し、30代は50%、40代は53%と子育て世代で低い結果となりました。

地区別では、牡鹿地区が82%、桃生地区が80%に対し、雄勝地区は44%、河北地区は56%と低くなっており、年代や地区で満足度に差が出る結果となりました。

今後も市民の理解が得られる教育活動となるよう、児童生徒の学力向上、豊かな心や健やかな体の育成等に係る各種施策を展開し、学校教育の充実に取り組む必要があると考えます。

### 問23 防災教育が推進されている

No.	項目	回答数
1	満足している	88名
2	どちらかといえば満足している	512名
3	どちらかといえば不満である	202名
4	不満である	49名
	無記入	66名



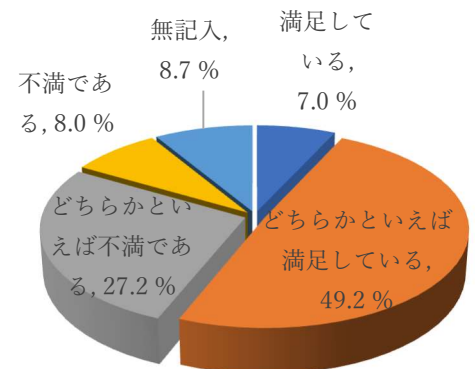
「満足している」「どちらかといえば満足している」と回答した方が65.4%に対し、「どちらかといえば不満である」「不満である」と回答した方は27.3%と、不満度よりも満足度が高い結果となりました。

年代別の満足度は、18～29歳が81%に対し、その他の年代は60～70%となりました。

地区別では、桃生地区が85%、牡鹿地区が82%に対し、雄勝地区は56%と低くなっており、年代や地区で満足度に差が出る結果となりましたが、全体の満足度から考えると児童生徒の命を守るために推進している防災教育の内容が、充実したものとして認識されてきた結果と考えられます。引き続き、充実した防災教育の推進を図ってまいります。

### 問24 地域ぐるみでの教育活動が推進されている

No.	項目	回答数
1	満足している	64名
2	どちらかといえば満足している	451名
3	どちらかといえば不満である	249名
4	不満である	73名
	無記入	80名



「満足している」「どちらかといえば満足している」と回答した方が56.2%に対し、「どちらかといえば不満である」「不満である」と回答した方は35.2%と、不満度よりも満足度が高い結果となりました。

年代別の満足度は、18～29歳が72%に対し、50代は52%と低い結果となりました。

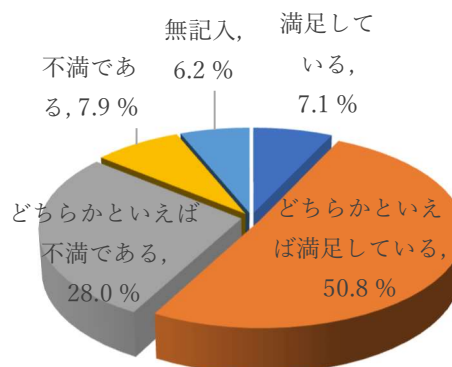
地区別では、最も高い地区の桃生地区が83%に対し、河北地区は53%と低くなっており、年代や地区で満足度に差が出る結果となりました。

独自アンケートによる事業対象となる子供たちの事業満足度は高いが、本アンケート対象者の年齢が18歳以上であることから、事業周知に課題があると考えられるため、関係団体と連携しブラッシュアップしていく必要があると考えます。



### 問25 生涯学習に親しむ取組が推進されている

No.	項目	回答数
1	満足している	65名
2	どちらかといえば満足している	466名
3	どちらかといえば不満である	257名
4	不満である	72名
	無記入	57名



「満足している」「どちらかといえば満足している」と回答した方が57.9%に対し、「どちらかといえば不満である」「不満である」と回答した方は35.9%と、不満度よりも満足度が高い結果となりました。

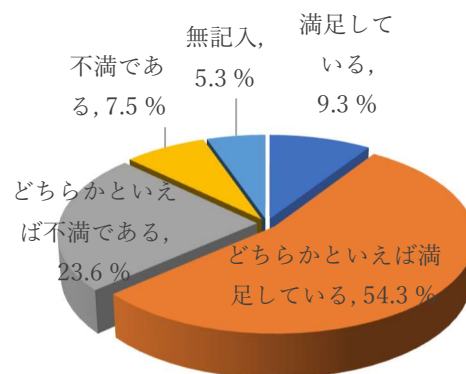
年代別の満足度は、70代が70%に対し、30代は51%と低い結果となりました。

地区別では、最も高い地区の稲井地区が84%に対し、河北地区は52%と低くなっており、年代や地区で満足度に差が出る結果となりました。

一方で、まきあーとテラスを拠点とした文化芸術活動の推進として、芸術文化センターでの各種催し、公演及び博物館での企画展・特別展等の来館者に対する独自アンケート結果では、平均して85%以上の高い満足度を得ています。独自アンケートと本アンケート結果とでは多少乖離があることから、さらなるまきあーとテラス及び石巻市博物館の認知度の向上に向け、施設や各種事業のPR活動のほか、認知度向上に向けた方策を研究していく必要があると考えます。

### 問26 スポーツに親しむ取組が推進されている

No.	項目	回答数
1	満足している	85名
2	どちらかといえば満足している	498名
3	どちらかといえば不満である	216名
4	不満である	69名
	無記入	49名



「満足している」「どちらかといえば満足している」と回答した方が63.6%に対し、「どちらかといえば不満である」「不満である」と回答した方は31.1%と、不満度よりも満足度が高い結果となりました。

年代別の満足度は、18～29歳が81%に対し、40代と50代は62%と低い結果となりました。

地区別では、最も高い地区の稲井地区が87%に対し、北上地区は64%と低くなっており、年代や地区で満足度に差が出る結果となりました。

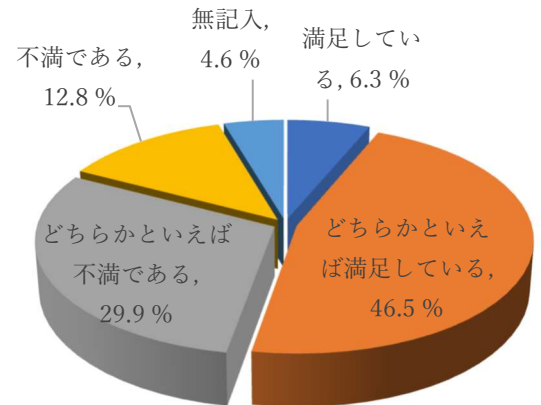
全体で6割を越える満足度があることから、市民一人一人がスポーツ活動を継続的に実践できる環境が整備できていると考えられます。



## (6) 行財政運営

### 問27 信頼される行政サービスが行われている

No.	項目	回答数
1	満足している	58名
2	どちらかといえば満足している	426名
3	どちらかといえば不満である	274名
4	不満である	117名
	無記入	42名



「満足している」「どちらかといえば満足している」と回答した方が52.8%に対し、「どちらかといえば不満である」「不満である」と回答した方は42.7%と、不満度よりも満足度が高い結果となりました。

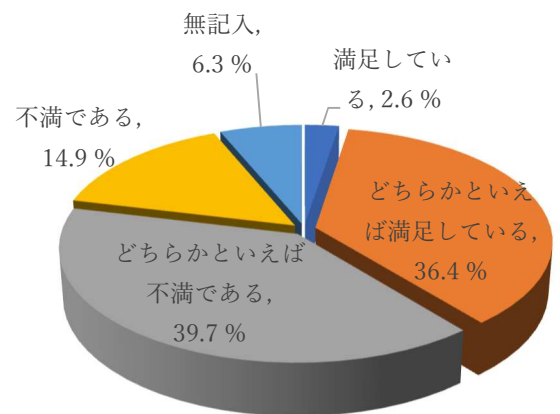
年代別の満足度は、18～29歳が68%、80歳以上が62%に対し、30代は49%、40代は47%と低い結果となりました。

地区別では、最も高い地区の稲井地区が68%に対し、河北地区は47%と低くなっており、年代や地区で満足度に差が出る結果となりました。

満足度の低い年代や地区に向けた広報・広聴事業をより一層充実させ、市民に寄り添い信頼される行政運営を推進する必要があると考えます。

### 問28 効率的な行財政運営が行われている

No.	項目	回答数
1	満足している	24名
2	どちらかといえば満足している	334名
3	どちらかといえば不満である	364名
4	不満である	137名
	無記入	58名



「満足している」「どちらかといえば満足している」と回答した方が39%に対し、「どちらかといえば不満である」「不満である」と回答した方は54.6%と、満足度よりも不満度が高い結果となりました。

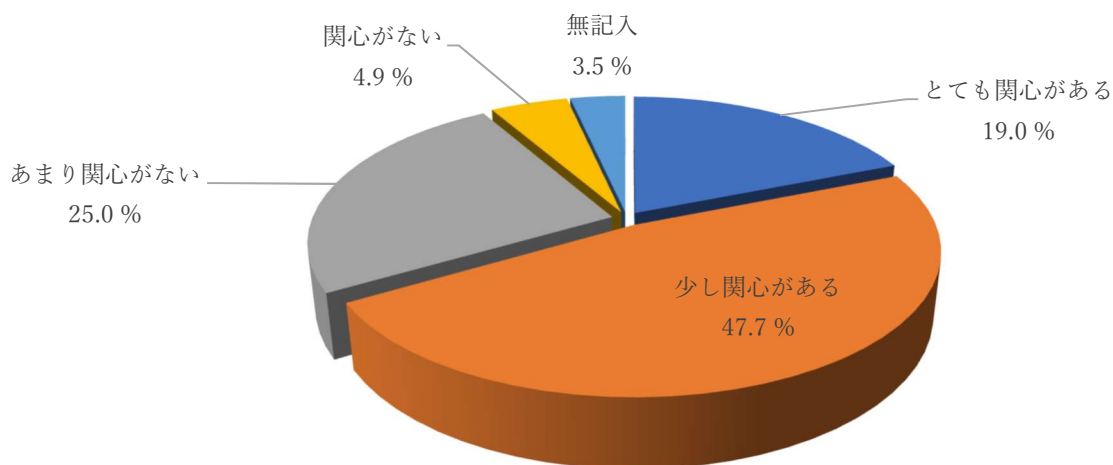
年代別の満足度は、18～29歳が55%、80歳以上が45%に対し、30代～50代は38%と低くなっており、年代で満足度に差が出る結果となりました。

より限られた人材、限られた財源を最大限活用するとともに、これまで以上の経費削減並びに財源確保に努め、効率的な財政運営を図る必要があると考えます。

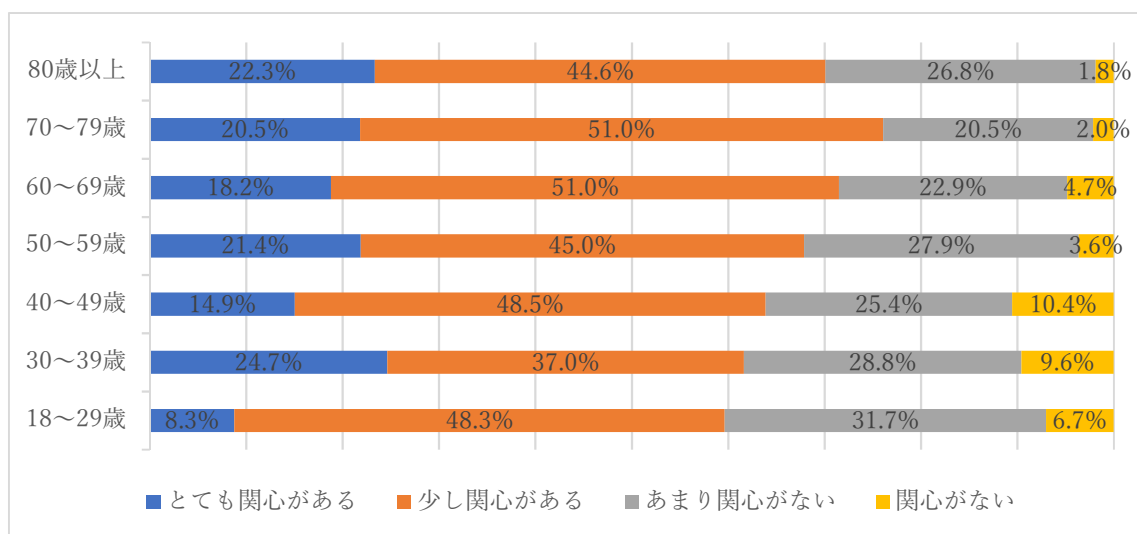
## 2. 市政への関心

問29 石巻市が行うことへの関心について1つ選んでください。

No.	項目	回答数
1	とても関心がある	174名
2	少し関心がある	437名
3	あまり関心がない	229名
4	関心がない	45名
	無記入	32名

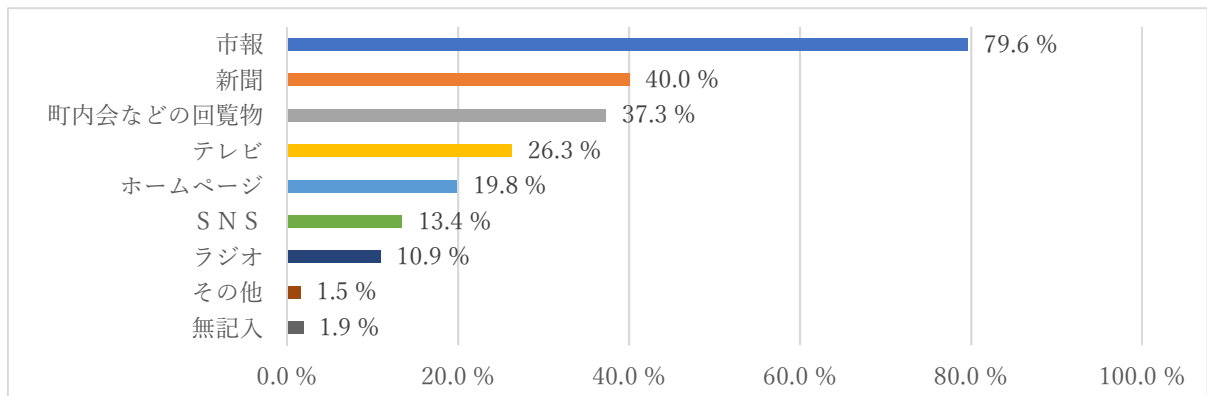


年代別回答割合

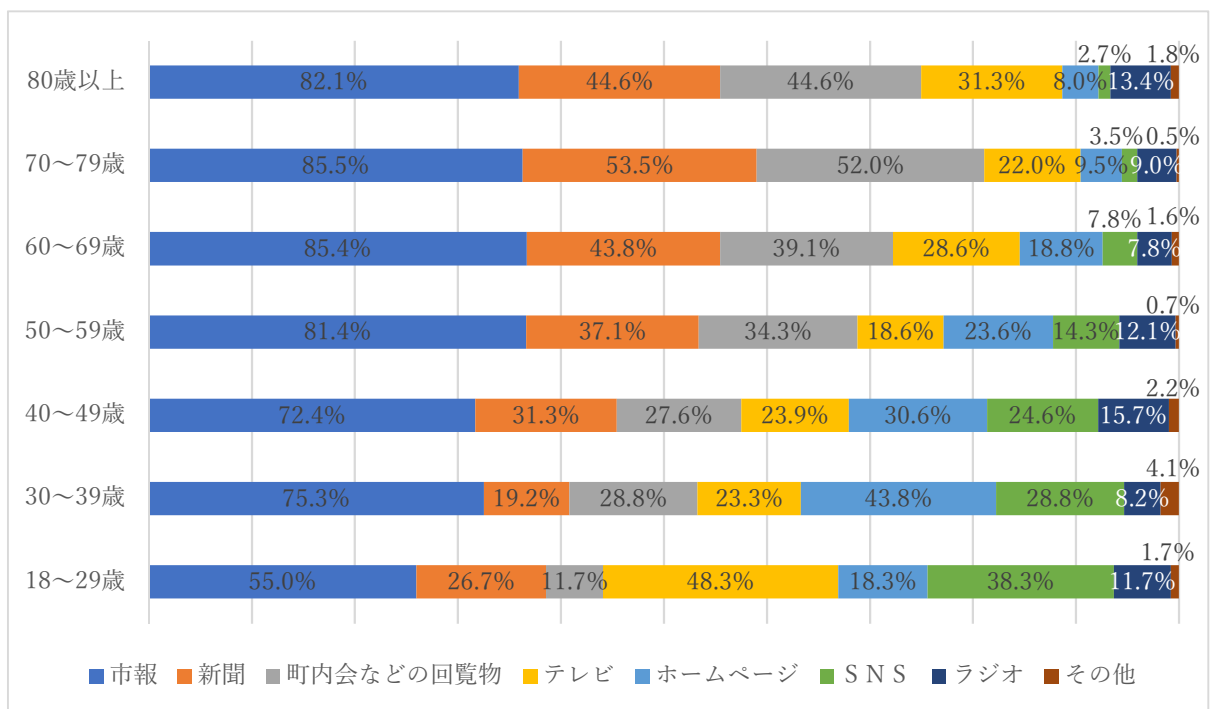


問30 市政に関する情報の入手先は何ですか。当てはまるものをすべて選んでください。

No.	項目	回答数
1	市報	730名
2	新聞	367名
3	町内会などの回覧物	342名
4	テレビ	241名
5	ホームページ	182名
6	SNS	123名
7	ラジオ	100名
8	その他	14名
	無記入	17名



年代別回答割合



その他

● 市議会議員 ● ネットニュース ● フリーマガジン ● 知人

市政への関心について、「とても関心がある」「少し関心がある」と回答した方が66.7%を占めており、全体の3分の2を超えています。全世代で「少し関心がある」と回答した方が最も多くなっていますが、19歳から29歳まででは、「とても関心がある」と回答した方の割合が、他の年代に比べて低い結果となりました。

情報の入手先としては、「市報」が最も多い79.6%となっていますが、次点以降の情報の入手先については、18～29歳では「テレビ」「SNS」、30～39歳では「ホームページ」「SNS」、50歳以上では「新聞」「町内会などの回覧物」と回答した方が多い結果となりました。

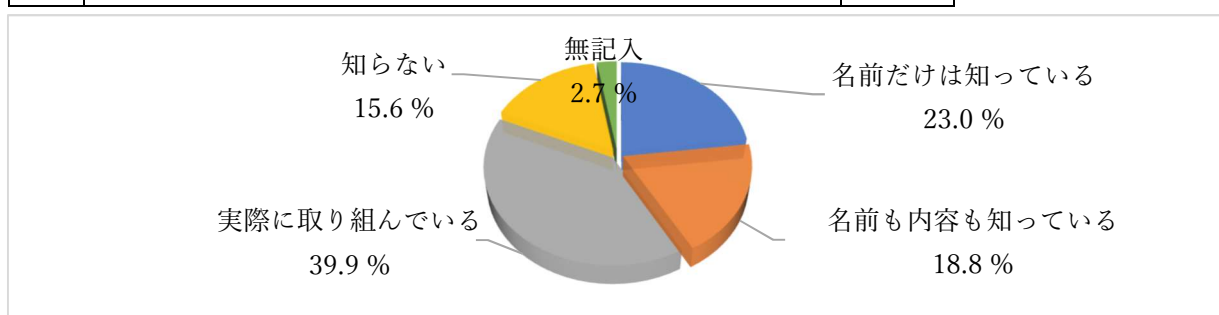
以上のことから、若年層に市政への関心を持ってもらうことと、世代ごとに情報の入手方法が異なる、という課題が分かりました。

若年層への効果的な情報発信方法としてSNSを活用していくことや、全世代に認知されている市報をより見やすく改善していくなど、今後も市民ニーズの把握と市政への反映に努め、市民が必要とする情報を積極的に発信してまいります。

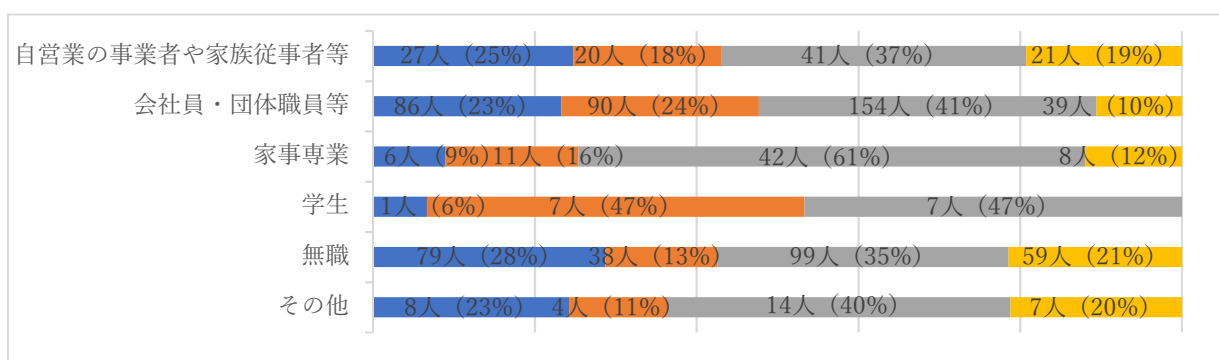
### 3. SDGs（持続可能な開発目標）

問31 市は、SDGs（持続可能な開発目標）を推進しており、令和2年7月に国から「SDGs未来都市」に選定され、SDGsの達成に向けた取組や普及啓発を進めています。「SDGs」という言葉を知っていますか。1つ選んでください。

No.	項目	回答数
1	名前だけは知っている	211名
2	名前も内容も知っている	172名
3	実際に取り組んでいる（エコバックを持ち歩いている等）	366名
4	知らない	143名
	無記入	25名



#### 職業別回答割合



SDGsについて「名前だけは知っている」、「名前も内容も知っている」、「実際に取り組んでいる」と回答した人の割合が前年度調査と比較して9.3%増加しました。

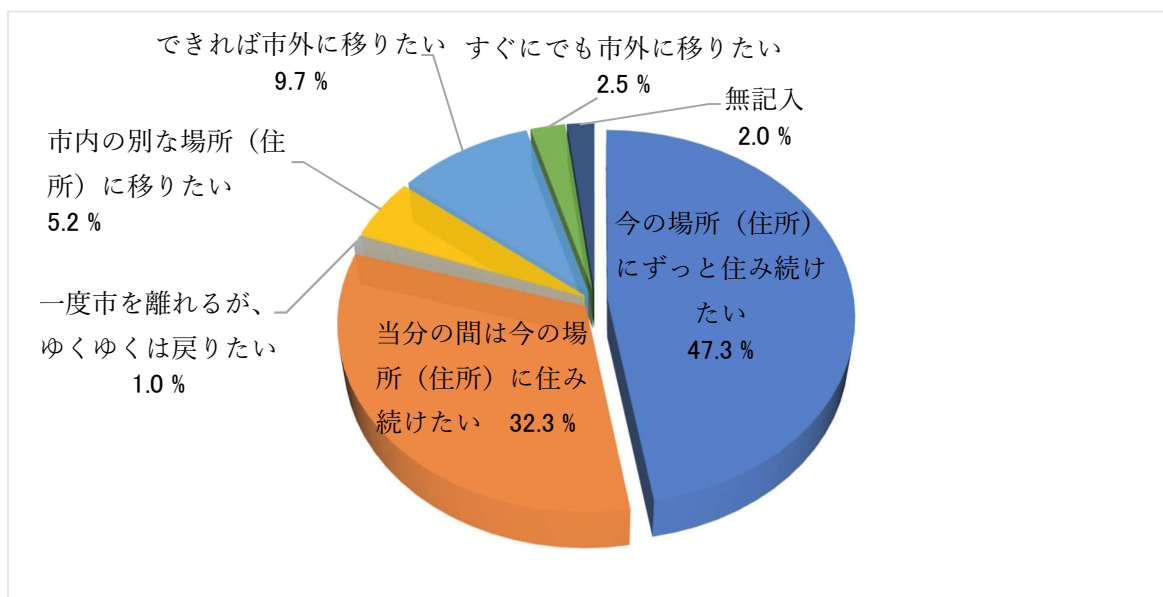
職業別の回答割合をみても、3項目（「名前だけは知っている」、「名前も内容も知っている」、「実際に取り組んでいる」）の合計について昨年度に引き続き「学生」が100%だったほか、「自営業」、「会社員等」、「家事専業」はいずれも80%台となり、認知されてきているとかがえます。

昨年度までの課題であった「実際に取り組んでいる」については、前年度調査の5.7%から大幅に増加しており、SDGsの普及啓発を通して、市民の間でSDGsが身近なものとなっている傾向が見られます。今後はこの良い流れを止めることのないよう、SDGsの達成に向けて、引き続き出前講座やシンポジウムを実施していくほか、SDGsパートナー企業等と連携しながら、普及啓発を進めて参ります。

## 4. 石巻市での居住

問32 あなたは今後も石巻市に住み続けたいと思いますか。1つ選んでください。

No.	項目	回答数
1	今の場所（住所）にずっと住み続けたい	434名
2	当分の間は今の場所（住所）に住み続けたい	296名
3	一度市を離れるが、ゆくゆくは戻りたい	9名
4	市内の別な場所（住所）に移りたい	48名
5	できれば市外に移りたい	89名
6	すぐにでも市外に移りたい	23名
	無記入	18名



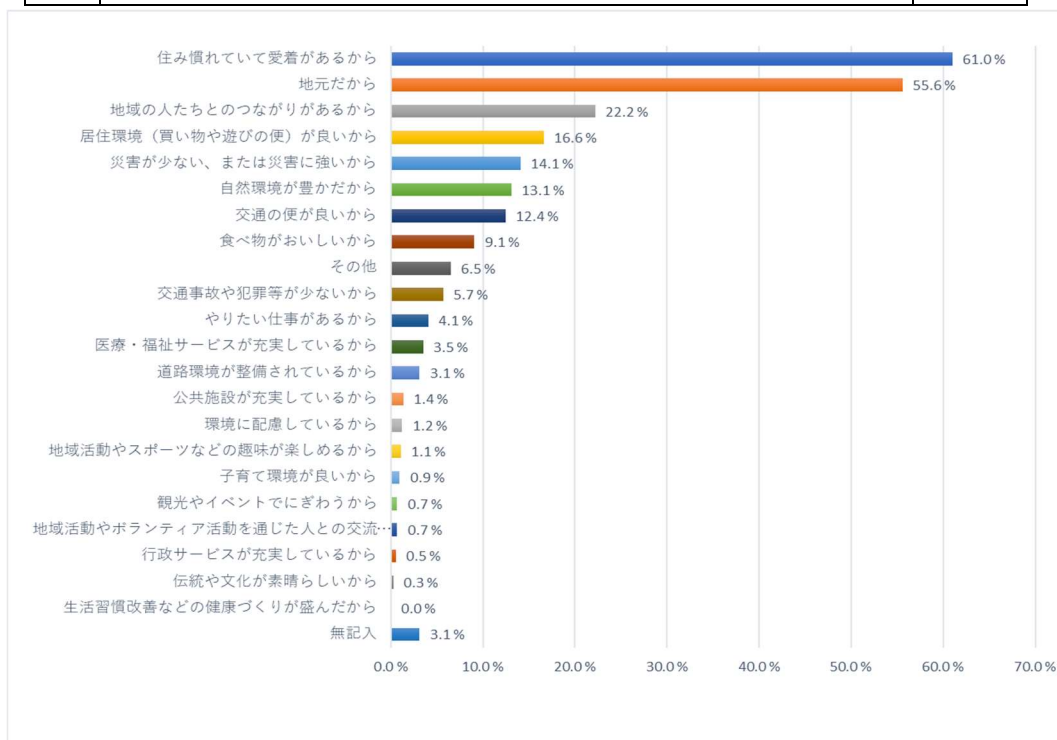
市内での居住を希望する4つの選択肢（「今の場所（住所）にずっと住み続けたい」、「当分の間は今の場所（住所）に住み続けたい」、「一度市を離れるが、ゆくゆくは戻りたい」、「市内の別な場所（住所）に移りたい」）の合計が85.8%となり、前年度調査より4.6%の減少となりました。

今後も住み続けたいと思われるまちづくりを目指して、市民の方にとって魅力的な施策に取り組んでいくことが必要であると考えます。



問33 問32で「1. 今の場所（住所）にずっと住み続けたい」「2. 当分の間は今の場所（住所）に住み続けたい」「3. 一度市を離れるが、ゆくゆくは戻りたい」と回答した方にお聞きします。今の場所（住所）に住みたい・住み続けたい理由は何ですか。当てはまるものを3つまで選んでください。

No.	項目	回答数
1	住み慣れていて愛着があるから	451名
2	地元だから	411名
3	地域の人たちとのつながりがあるから	164名
4	居住環境（買い物や遊びの便）が良いから	123名
5	災害が少ない、または災害に強いから	104名
6	自然環境が豊かだから	97名
7	交通の便が良いから	92名
8	食べ物がおいしいから	67名
9	その他	48名
10	交通事故や犯罪等が少ないから	42名
11	やりたい仕事があるから	30名
12	医療・福祉サービスが充実しているから	26名
13	道路環境が整備されているから	23名
14	公共施設が充実しているから	10名
15	環境に配慮しているから	9名
16	地域活動やスポーツなどの趣味が楽しめるから	8名
17	子育て環境が良いから	7名
18	観光やイベントでにぎわうから	5名
19	地域活動やボランティア活動を通じた人との交流が盛んだから	5名
20	行政サービスが充実しているから	4名
21	伝統や文化が素晴らしいから	2名
22	生活習慣改善などの健康づくりが盛んだから	0名
	無記入	23名



その他

- 子どもを転校させたくないから
- 持家で引っ越せないから
- 親と同居しているから
- これまで住んできた地元で将来貢献したいと考えているから
- 住みやすい気候だから
- 職場が近いから
- 移住等に要する金銭的余裕がないから
- 高齢で引っ越せないから
- 他に住みたいところがないから
- 漁業をしているため、住まわなくてはならないから

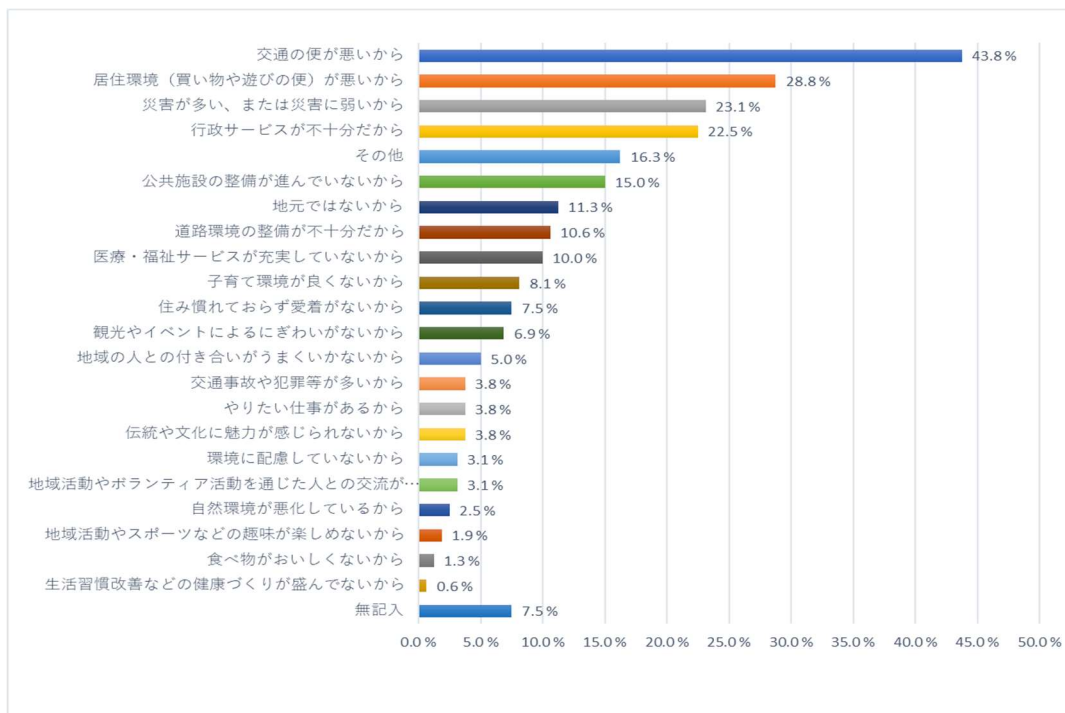
石巻市に住み続けたい理由としては、「住み慣れていて愛着があるから」が61.0%と最も高くなり、次いで「地元だから」が55.6%となりました。

そのほか、回答割合が高かった項目としては、「災害が少ない、または災害に強いから」、「地域の人たちとのつながりがあるから」、「自然環境が豊かだから」、「交通の便が良いから」、「居住環境（買い物や遊びの便）が良いから」が10%を超えています。

低かった項目としては、「行政サービスが充実しているから」、「子育て環境が良いから」、「観光やイベントでにぎわうから」、「伝統や文化が素晴らしいから」、「地域活動やボランティア活動を通じた人との交流が盛んだから」がいずれも1%未満となりました。

問34 問32で「4. 市内の別な場所（住所）に移りたい」「5. できれば市外に移りたい」「6. すぐにでも市外に移りたい」と回答した方にお聞きします。  
 市内の別な場所（住所）または市外に移り住みたい理由は何ですか。当てはまるものを3つまで選んでください。

No.	項目	回答数
1	交通の便が悪いから	70名
2	居住環境（買い物や遊びの便）が悪いから	46名
3	災害が多い、または災害に弱いから	37名
4	行政サービスが不十分だから	36名
5	その他	26名
6	公共施設の整備が進んでいないから	24名
7	地元ではないから	18名
8	道路環境の整備が不十分だから	17名
9	医療・福祉サービスが充実していないから	16名
10	子育て環境が良くないから	13名
11	住み慣れておらず愛着がないから	12名
12	観光やイベントによるにぎわいがないから	11名
13	地域の人との付き合いがうまくいかないから	8名
14	交通事故や犯罪等が多いから	6名
15	やりたい仕事があるから	6名
16	伝統や文化に魅力を感じられないから	6名
17	環境に配慮していないから	5名
18	地域活動やボランティア活動を通じた人との交流が盛んでないから	5名
19	自然環境が悪化しているから	4名
20	地域活動やスポーツなどの趣味が楽しめないから	3名
21	食べ物がおいしくないから	2名
22	生活習慣改善などの健康づくりが盛んでないから	1名
	無記入	12名



その他

- 他の市に比べて税金が高いのに恩恵が少ないから
- 目の前が道路になりうるさいから
- 老後が不安だから
- 給料が低いから
- 教育環境がよくないから
- 若い人たちにとって少し住みにくい所だと感じているから
- 道路がせまいから。駐車場がないから
- 県外に住む家族（親族）の近くに住みたいから

市外に移り住みたい理由としては、「交通の便が悪いから」が43.8%と最も高くなり、次いで「居住環境（買い物や遊びの便）が悪いから」が28.8%となりました。

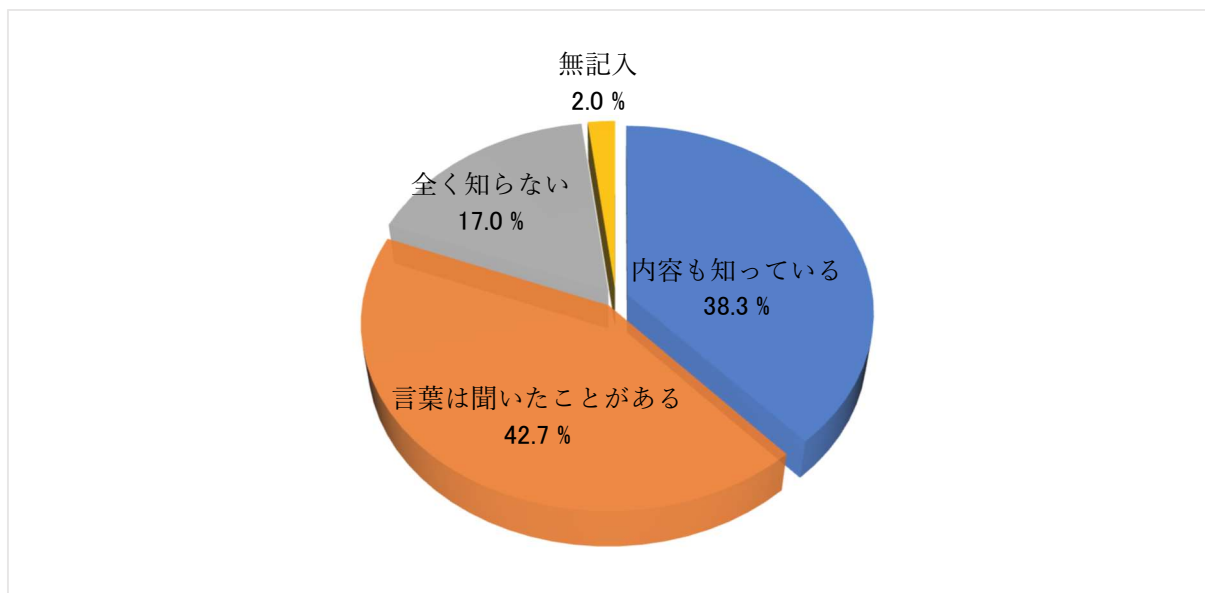
そのほか、回答割合が高かった項目としては、「地元ではないから」、「災害が多い、または災害に弱いから」、「公共施設の整備が進んでいないから」、「行政サービスが不十分だから」、「道路環境の整備が不十分だから」、「医療・福祉サービスが充実していないから」が10%を超えています。

市外に移り住みたい理由として回答割合が高かった項目については、改善を図るため、関係各課と情報共有し、住民のニーズを反映しながら、今後も住み続けたいと思える魅力的なまちづくりをしていく必要があると考えられます。

## 5. 男女共同参画社会

問35 あなたは、「男女共同参画社会」という言葉を知っていますか。1つ選んでください。

No.	項目	回答数
1	内容も知っている	351名
2	言葉は聞いたことがある	392名
3	全く知らない	156名
	無記入	18名



「男女共同参画社会」という言葉の認知度は、「言葉は聞いたことがある」との回答が42.7%と最も多く、「内容も知っている」と合わせた認知度は81.0%となっています。

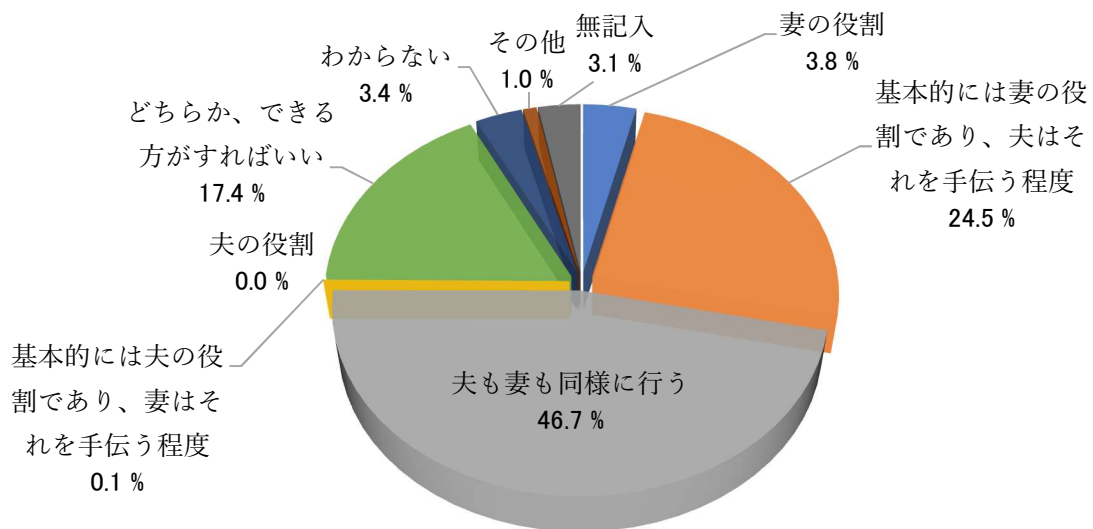
しかし、「全く知らない」と回答した方も17.0%となっていることから、今後もホームページ、SNSを活用した情報提供や、イベント等での広報を実施し、認知度の向上を図る必要があると考えます。

問36 家庭での育児や家事は、誰の役割だと思いますか。1つ選んでください。

No.	項目	回答数
1	妻の役割	35名
2	基本的には妻の役割であり、夫はそれを手伝う程度	225名
3	夫も妻も同様に行う	428名
4	基本的には夫の役割であり、妻はそれを手伝う程度	1名
5	夫の役割	0名
6	どちらか、できる方がすればいい	160名
7	わからない	31名
8	その他	9名
	無記入	28名

その他

- 夫婦の就労形態によって様々だと思う。どちらか、ではなく夫婦がお互いのことを思いやり、協力して役割を果たせば良いと考える
- 誰の役割でもないです
- 独り身だから自分でするしかない
- 基本的には専業主婦の役割であり、パートナーが手伝う。共働きであれば、同様に行うべき
- 家族全員
- 妻が障がい者であるため
- そもそも夫が手伝える環境にない



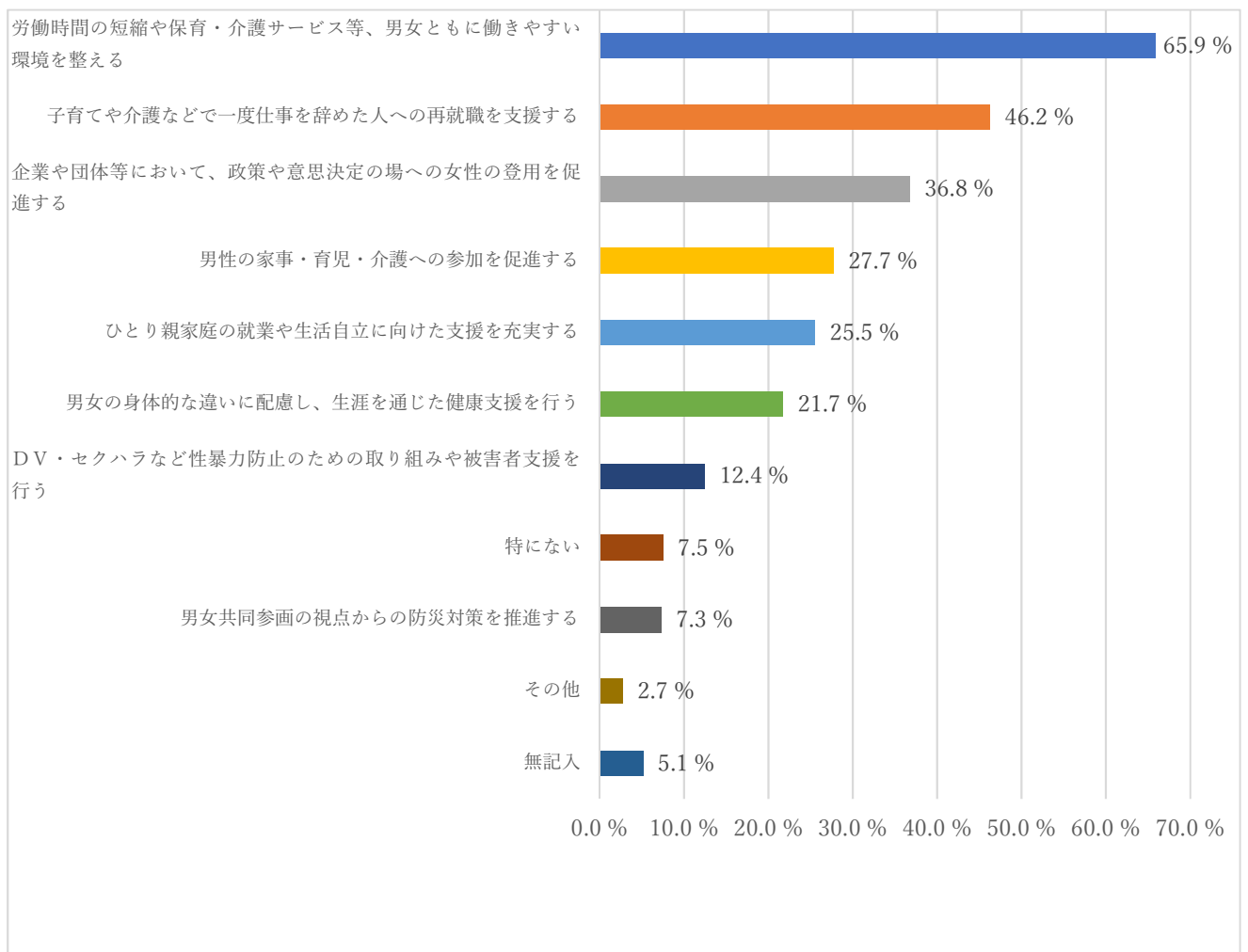
家庭での育児や家事は「夫も妻も同様に行う」が 46.7%、「どちらか、できる方がすればいい」が 17.4%と、性別に関係なく家事を行うと考える方が6割を超えています。

一方で、家庭での育児や家事は「基本的には妻の役割であり、夫はそれを手伝う程度」という回答が 24.5%となっていることから、今後もセミナー等を通して、固定的な役割分担意識（男性・女性という性別を理由に役割を固定的に分けること。）にとらわれず役割を決めることの意識醸成を図る必要があると考えます。



問37 男女共同参画社会を実現するために、今後、石巻市はどのようなことに特に力を入れていくべきだと思いますか。3つ選んでください。

No.	項目	回答数
1	労働時間の短縮や保育・介護サービス等、男女ともに働きやすい環境を整える	604名
2	子育てや介護などで一度仕事を辞めた人への再就職を支援する	424名
3	企業や団体等において、政策や意思決定の場への女性の登用を促進する	337名
4	男性の家事・育児・介護への参加を促進する	254名
5	ひとり親家庭の就業や生活自立に向けた支援を充実する	234名
6	男女の身体的な違いに配慮し、生涯を通じた健康支援を行う	199名
7	DV・セクハラなど性暴力防止のための取り組みや被害者支援を行う	114名
8	特にない	69名
9	男女共同参画の視点からの防災対策を推進する	67名
10	その他	25名
	無記入	47名



その他

- 子どもたちへの教育の一環として組み込む
- 家族に障がい者が居て、介護が必要な場合や親の介護中の場合の働き方等、社会の理解がもっと深くなれば良いと思います
- 無理に流行に乗る必要も無いかと思います
- 賃金水準の改善
- 企業や団体等において女性役員、管理職を増やす
- 議会への女性の参画を推進すべき
- 仕事の雇用条件に関わらず、学校行事等の参加に会社は理解を示すべき
- 市立高校が女子高であることの意義を問い直す
- 議員にも積極的に女性議員を入れる
- 各リーダーの意識改革
- 高齢者でも働かせてくれる事業所があってほしい
- 学校、家庭での教育

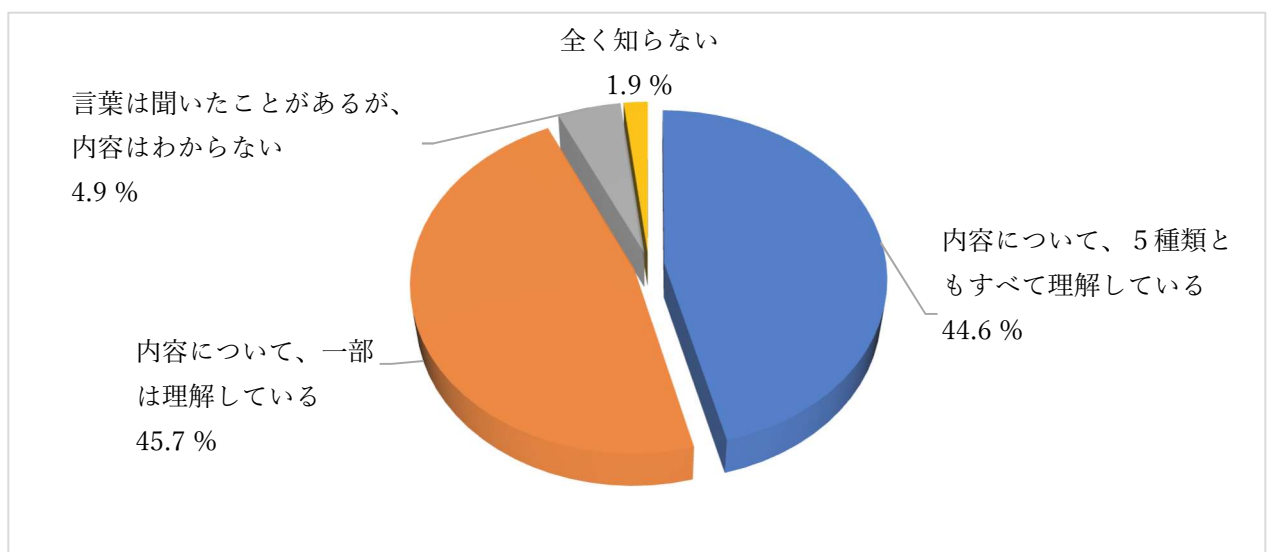
「労働時間の短縮や保育・介護サービス等、男女ともに働きやすい環境を整える」との回答が65.9%と高くなっており、男女ともに家事や育児などをしながらでも十分に働くことができる環境が必要とされていることがうかがえます。

また、「子育てや介護などで一度仕事を辞めた人への再就職を支援する」との回答が46.2%、「企業や団体等において、政策や意思決定の場への女性の登用を促進する」との回答が36.8%となっており、今後更に再就職に対する支援や、登用促進の呼びかけを行い、男女が社会の対等な構成員として、共に参画できる社会の実現に取り組んでいく必要があると考えます。

問38 あなたは、DV（配偶者等からの暴力）の内容について正しく理解していますか。1つ選んでください。

《DVの種類・身体的暴力、精神的暴力、性的暴力、社会的暴力、経済的暴力》

No.	項目	回答数
1	内容について、5種類ともすべて理解している	409名
2	内容について、一部は理解している	419名
3	言葉は聞いたことがあるが、内容はわからない	45名
4	全く知らない	17名
	無記入	27名



DVの内容について正しく理解しているかどうかについては、「5種類ともすべて理解している」が44.6%、「一部は理解している」が45.7%となっています。言葉自体の認知度は95.2%と高くなっていますが、すべてのDVについて正しく理解してもらうために、今後もホームページやSNSを活用した情報提供、啓発活動に努める必要があると考えます。

問39 あなたは、セクシャル・ハラスメントまたはDV（配偶者等からの暴力）被害にあった時の相談窓口（ア～オ）を知っていますか。各項目につき1つ選んでください。

また、ア～オ以外の相談窓口を知っている方は、その他の欄にご記入ください。

ア 石巻警察署

No.	項 目	回答数
1	名称も支援内容も知っている	318名
2	名称は聞いたことがある	359名
3	全く知らない	156名
	無記入	84名

イ 石巻市総合相談センター

No.	項 目	回答数
1	名称も支援内容も知っている	103名
2	名称は聞いたことがある	278名
3	全く知らない	393名
	無記入	143名

ウ 宮城県東部保健福祉事務所

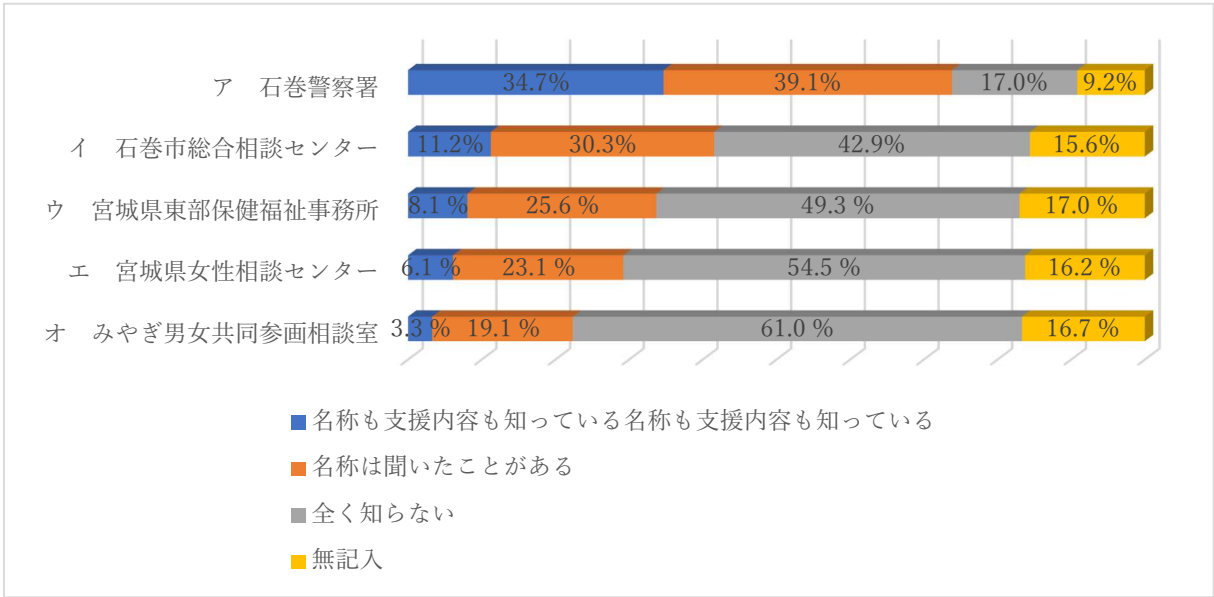
No.	項 目	回答数
1	名称も支援内容も知っている	74名
2	名称は聞いたことがある	235名
3	全く知らない	452名
	無記入	156名

エ 宮城県女性相談センター

No.	項 目	回答数
1	名称も支援内容も知っている	56名
2	名称は聞いたことがある	212名
3	全く知らない	500名
	無記入	149名

オ みやぎ男女共同参画相談室

No.	項 目	回答数
1	名称も支援内容も知っている	30名
2	名称は聞いたことがある	175名
3	全く知らない	559名
	無記入	153名

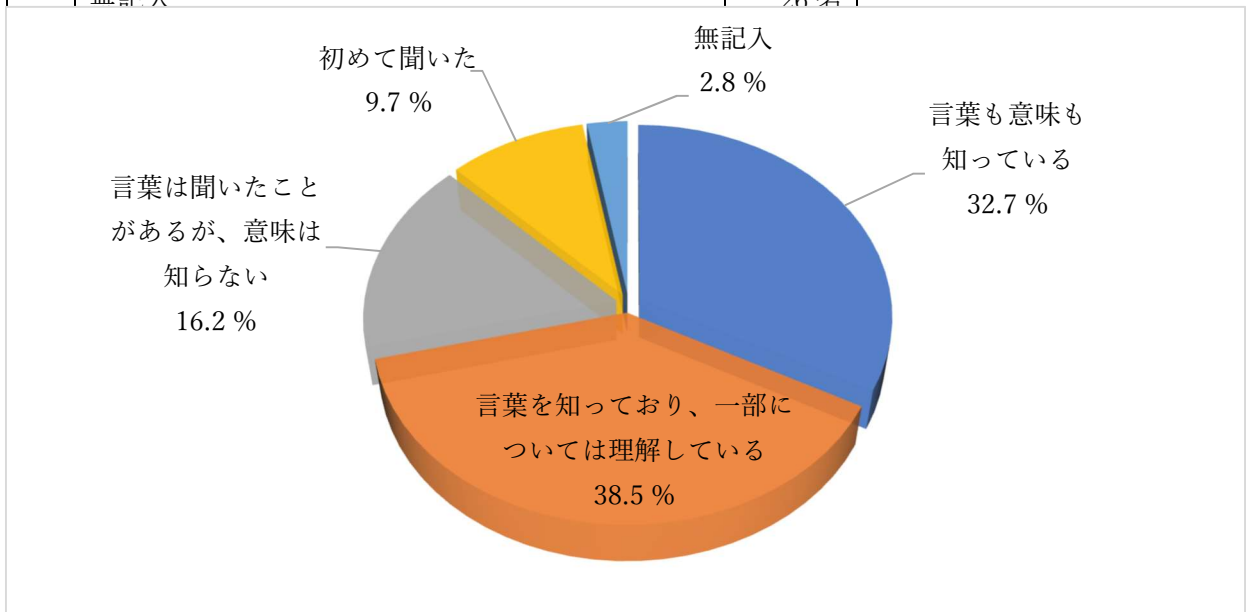


その他  
●ハーティ仙台

セクシャル・ハラスメント又はDVの各種相談窓口について、「名称も支援内容も知っている」との回答が最も多いところでも、その割合は34.7%となっており、セクシャル・ハラスメントやDV被害にあった際の相談窓口の認知度は低いことがうかがえます。このことから、関係団体との情報共有等、連携強化を図りながら、相談窓口や支援内容の周知に努める必要があると考えます。

問40 あなたは、「性的マイノリティ」、「LGBT」という言葉を知っていますか。  
1つ選んでください。

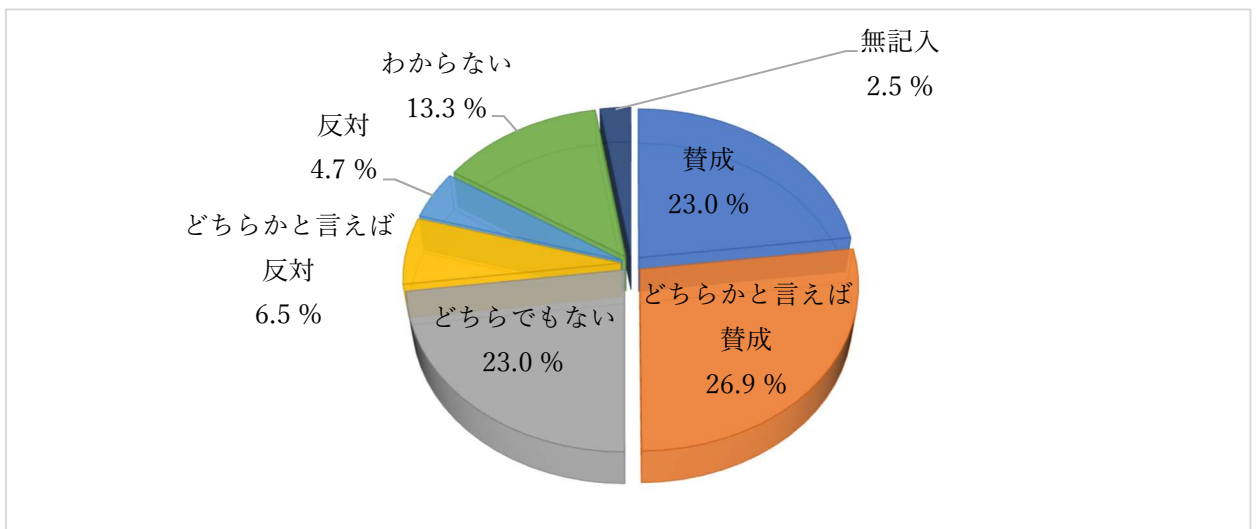
No.	項目	回答数
1	言葉も意味も知っている	300名
2	言葉を知っており、一部については理解している	353名
3	言葉は聞いたことがあるが、意味は知らない	149名
4	初めて聞いた	89名
	無記入	26名



性的マイノリティ、LGBTの言葉自体の認知度については 87.4%となっていますが、「言葉も意味も知っている」と回答した割合を見ると 32.7%にとどまっていることから、言葉だけでなく、内容についても理解を深めてもらうために、研修や啓発事業を実施し、更なる理解促進を図る必要があると考えます。

問41 石巻市では、パートナーシップ制度の導入を検討していますが、導入することについてあなたはどのように考えますか。1つ選んでください。

No.	項目	回答数
1	賛成	211名
2	どちらかと言えば賛成	247名
3	どちらでもない	211名
4	どちらかと言えば反対	60名
5	反対	43名
6	わからない	122名
	無記入	23名



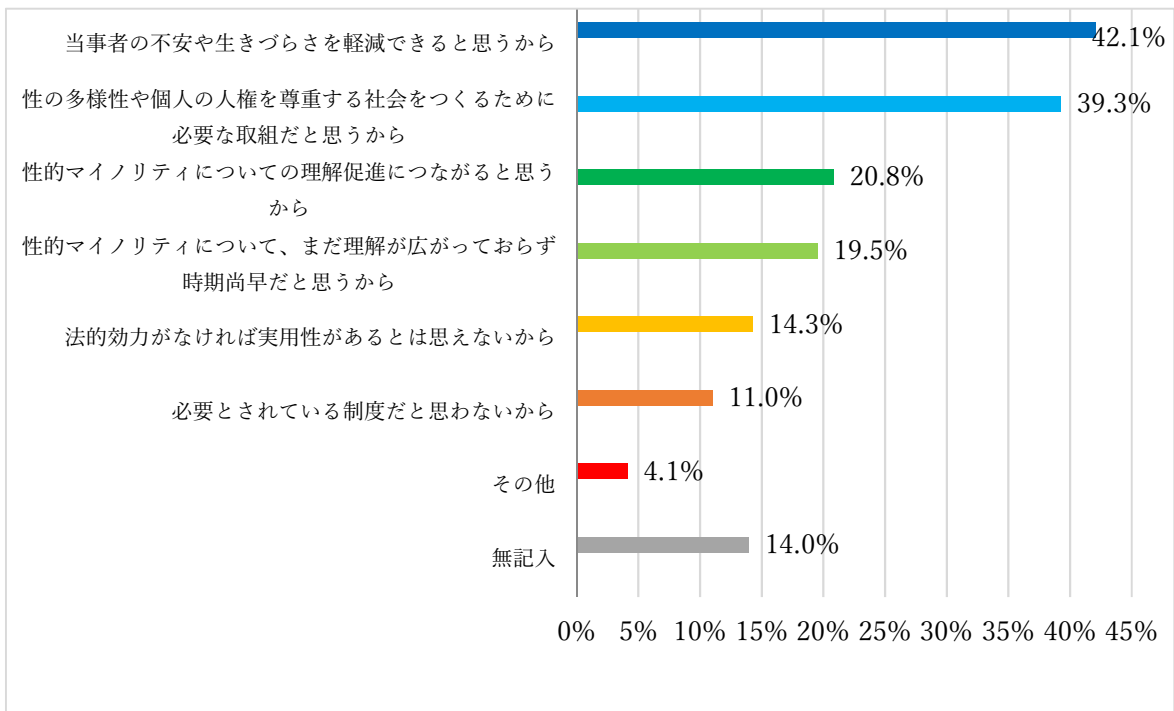
パートナーシップ制度の導入について、「賛成」「どちらかと言えば賛成」と回答した割合は49.9%と約半数となっています。

一方で「わからない」と回答した割合は13.3%となっていることから、今後はパートナーシップ制度についての目的や意義等に関する理解促進を図りながら、制度の導入について検討する必要があると考えます。



問42 問41で回答した理由について当てはまるものをすべて選んでください。

No.	項目	回答数
1	当事者の不安や生きづらさを軽減できると思うから	386名
2	性の多様性や個人の人権を尊重する社会をつくるために必要な取組だと思うから	360名
3	性的マイノリティについての理解促進につながると思うから	191名
4	性的マイノリティについて、まだ理解が広がっておらず時期尚早だと思うから	179名
5	法的効力がなければ実用性があるとは思えないから	131名
6	必要とされている制度だと思わないから	101名
7	その他	38名
	無記入	128名



その他

- 生きづらさの軽減は大事だがオープンにしたい人もいると思う。併せて個人情報の保護等の対策も期待したい。当事者の方々が安心して生きていける環境作りが大切だと思う
- この制度の導入は、石巻市が人権を尊重していることを発信するための具体的な手立てとなりうるから
- 個人の生きづらさを軽減して尊重する事は大変良い事だと思うが、違う観点から今の少子化に拍車を掛けるのではと心配です
- この制度を悪用する人が出そうだから
- 「好きにすればよい」という見方
- LGBTQ+以外の人々の生きづらさは尊重されないのか
- 本人達が安心できれば良い
- 理解したいと思うが、自分にまだまだ知識が必要だと思う
- 当事者同士、静かに暮らせば良いのでは
- 石巻に移住してくる人が増えるかも知れないから
- なんとも言えない
- 必要かどうか分からない
- 人口流出の歯止め策として
- 考えたことがない
- 当事者の方が多くいる中で、孤独死が今後もっと増えていくと思います
- 自分の人生は自分で決めるもので、好きなように自分の人生を生きるのに必要だと思うから
- 十人十色だから、分からない
- 個人の自由（基本的人権の尊重）
- 個人の考え方を周囲が口を出す事ではないと思う
- 広く議論して進めるべき

「当事者の不安や生きづらさを軽減できると思うから」「性の多様性や個人の人権を尊重する社会をつくるために必要な取組だと思うから」と回答した割合が高くなっており、パートナーシップ制度の導入について前向きな意見が多いことがうかがえます。

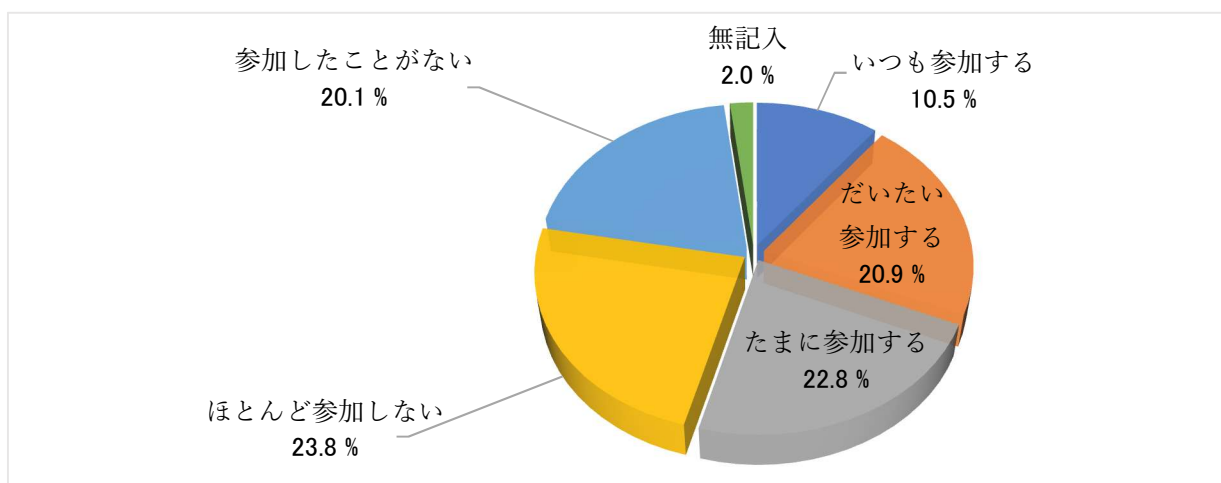
一方で「性的マイノリティについて、まだ理解が広がっておらず時期尚早だと思うから」と回答した割合は19.5%となっていることから、性的マイノリティに関する正しい知識や理解を深めていただくための研修等を実施し、意識の醸成を図る必要があると考えます。

## 6. 町内会・自治会活動への参加

問43 地域の町内会・自治会活動（行事）が行われる際に参加していますか。1つ選んでください。

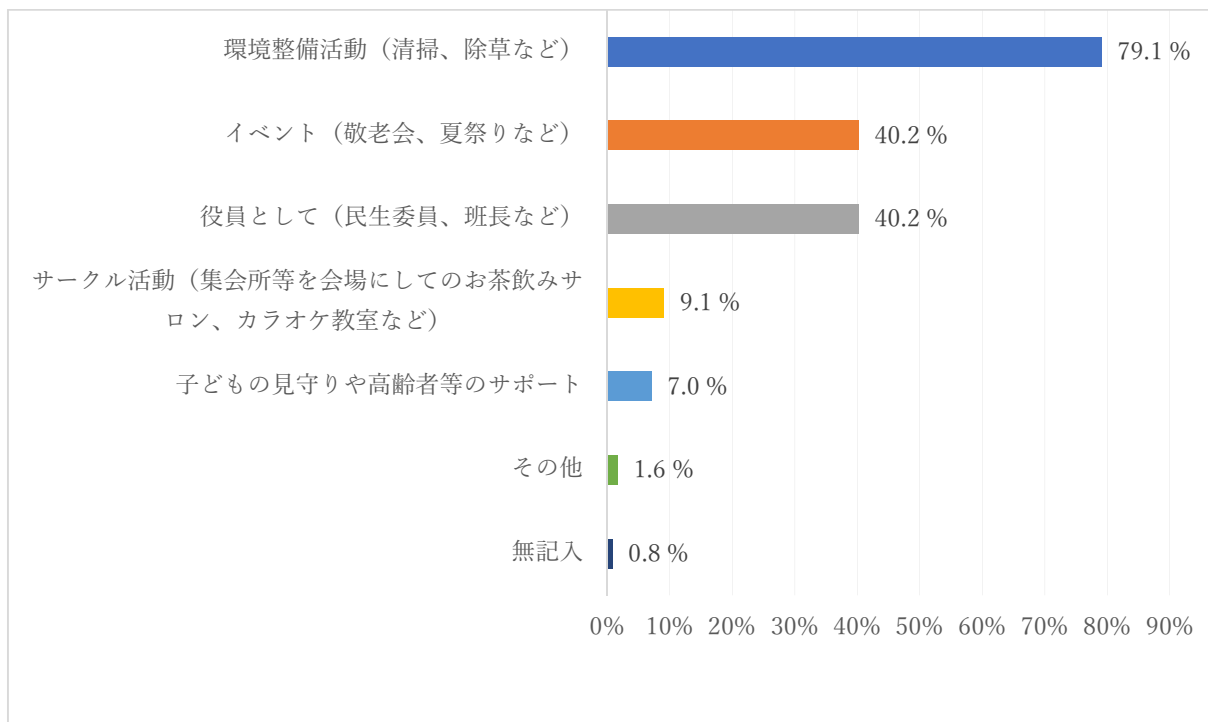
※コロナ禍の影響前（自治会が通常に活動している状況）の頃でお考えください。

No.	項目	回答数
1	いつも参加する	96名
2	だいたい参加する	192名
3	たまに参加する	209名
4	ほとんど参加しない	218名
5	参加したことがない	184名
	無記入	18名



問44 問43で「1. いつも参加する」「2. だいたい参加する」「3. たまに参加する」と回答した方にお聞きします。地域の活動（行事）にどのように関わっていますか。当てはまるものをすべて選んでください。

No.	項目	回答数
1	環境整備活動（清掃、除草など）	393名
2	イベント（敬老会、夏祭りなど）	200名
3	役員として（民生委員、班長など）	200名
4	サークル活動（集会所等を会場にしてのお茶飲みサロン、カラオケ教室など）	45名
5	子どもの見守りや高齢者等のサポート	35名
6	その他	8名
	無記入	4名

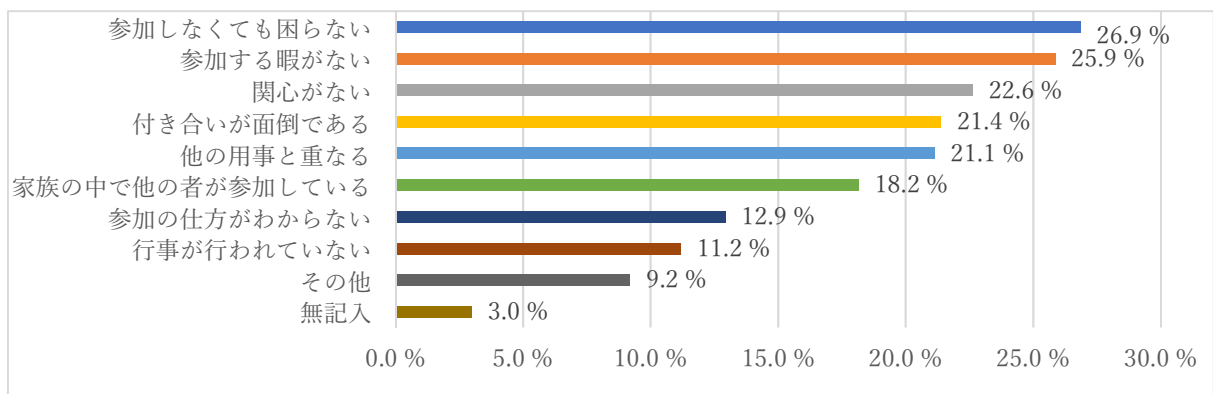


その他

- 図書館等での本の読み聞かせ
- 愛好会活動
- 健康づくりや生きがいづくりの勉強会

問45 問43で「4. ほとんど参加しない」「5. 参加したことがない」と回答した方にお聞きします。その理由として当てはまるものをすべて選んでください。

No.	項目	回答数
1	参加しなくても困らない	108名
2	参加する暇がない	104名
3	関心がない	91名
4	付き合いが面倒である	86名
5	他の用事と重なる	85名
6	家族の中で他の者が参加している	73名
7	参加の仕方がわからない	52名
8	行事が行われていない	45名
9	その他	37名
	無記入	12名



その他

- 子どもが小さく預けるところがない
- 体調が悪い
- 体が不自由
- 認知症
- 一部知り合いだけで行っている雰囲気がある
- 詳細な情報提供がない
- ストレスを感じる
- 区費の徴収がない
- 親の介護
- 仕事

地域の町内会・自治会活動については「参加したことがない」、「無記入」を除いた77.9%以上が何かしらの活動に参加していると回答しており、昨年に比べ2.0ポイント増加し高い数値となっています。

「いつも参加する」、「だいたい参加する」、「たまに参加する」と回答した方のうち、79.1%が「清掃や除草などの環境整備活動」で地域の町内会・自治会活動に関わっており、2.7ポイント増加しました。続いて40.2%が「敬老会や夏祭りなどのイベント」、「民生委員や班長などの役員活動」で地域の町内会・自治会活動に関わっていますが、両項目ともに1.5ポイント減少しています。

また、地域の町内会・自治会活動について「ほとんど参加しない」、「参加したことがない」と回答した方のうち、「参加しなくても困らない」が26.9%と最も多く2.9ポイント増加し、続いて「参加する暇がない」という回答が25.9%となっており、1.9ポイント増加しています。

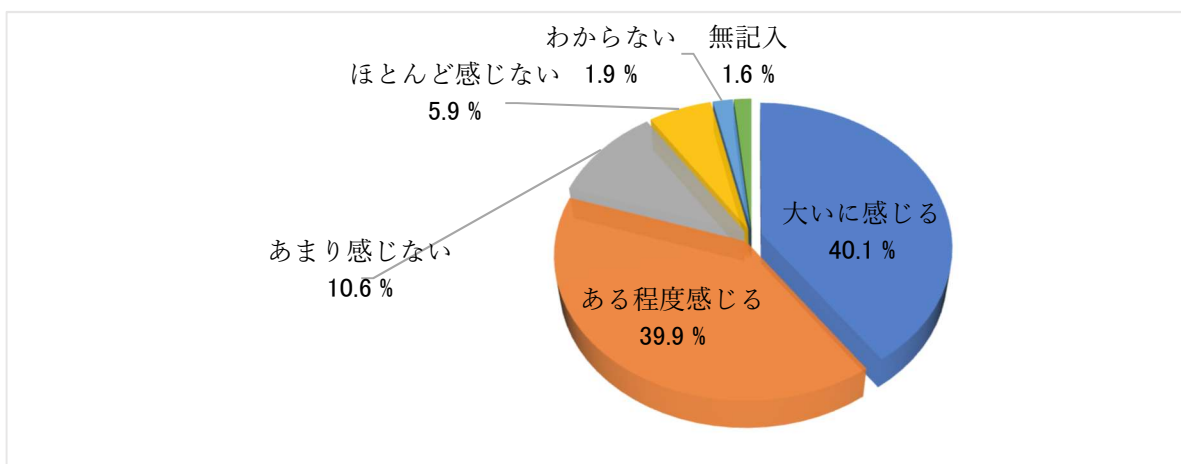
町内会・自治会活動のうち環境整備活動に参加した数値が上昇していることから、比較的参加しやすい事業の1つであると考えられます。

住民に地域の町内会・自治会活動へ更に参加をしてもらえるよう、町内会・自治会活動内容の周知や必要性について理解を促していく必要があると考えられます。

## 7. スポーツ

問46 運動不足を感じますか。1つ選んでください。

No.	項目	回答数
1	大いに感じる	368名
2	ある程度感じる	366名
3	あまり感じない	97名
4	ほとんど感じない	54名
5	わからない	17名
	無記入	15名

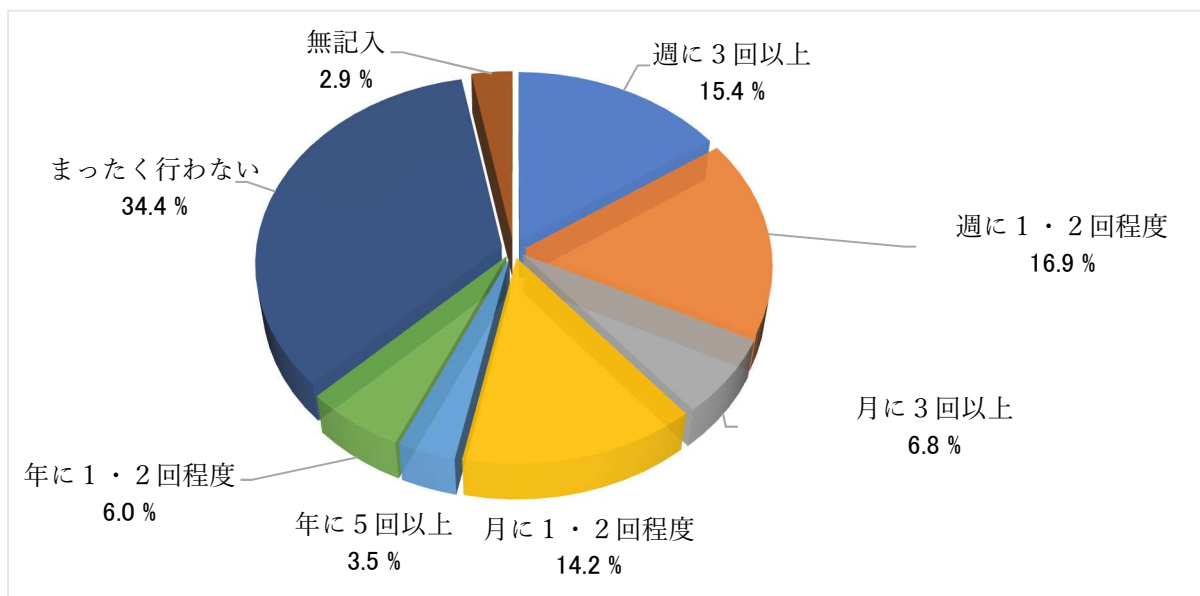


回答者の70%以上が【運動不足】を感じている状況であり、これを解消するために、身近な所で気軽に身体を動かすための施策を検討する必要があると考えられます。



問47 直近1年間の運動頻度はどれくらいですか。1つ選んでください。

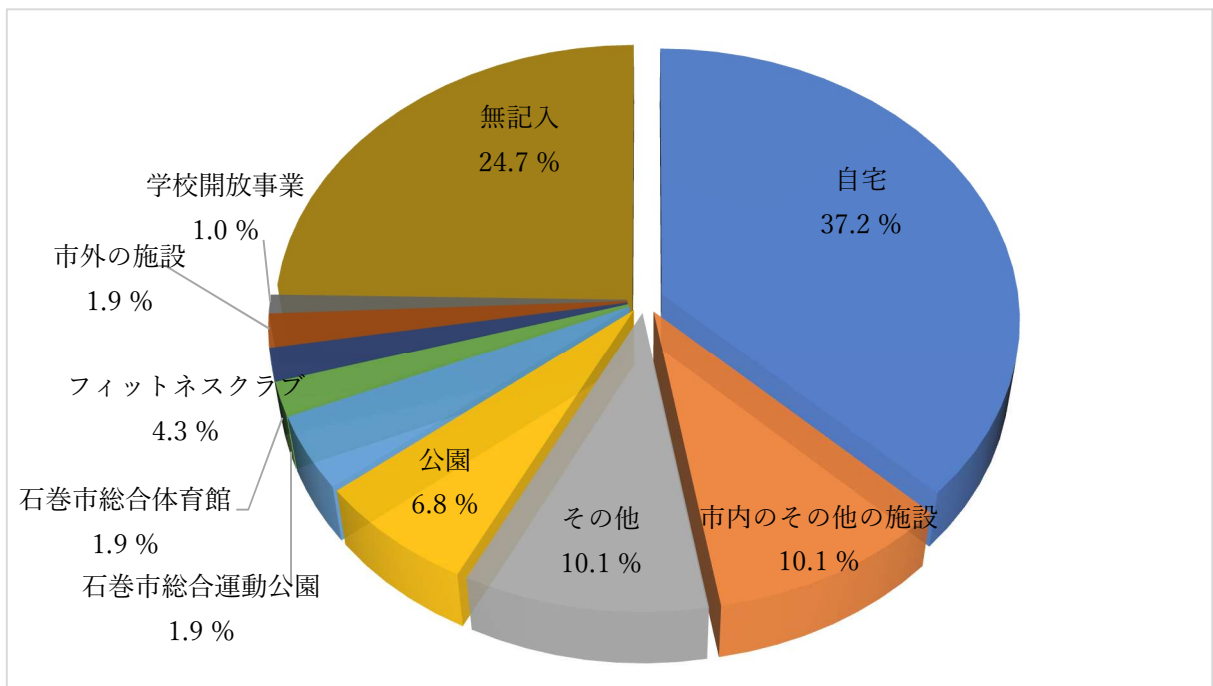
No.	項目	回答数
1	週に3回以上	141名
2	週に1・2回程度	155名
3	月に3回以上	62名
4	月に1・2回程度	130名
5	年に5回以上	32名
6	年に1・2回程度	55名
7	まったく行わない	315名
	無記入	27名



週1回以上の頻度でスポーツを行っている方が32.3%、まったく行わない方が34.4%となり、二極化がすすんでいます。今後は全く行わない方でも楽しめるスポーツを実施し、運動頻度の向上を図りたいと考えています。

問48 問47で「1.週に3回以上」～「6.年に1・2回程度」と回答した方にお聞きします。運動やスポーツ活動はどこで行っていますか。1つ選んでください。

No.	項目	回答数
1	自宅	214名
2	市内のその他の施設	58名
3	その他	58名
4	公園	39名
5	フィットネスクラブ	25名
6	石巻市総合運動公園	11名
7	石巻市総合体育館	11名
8	市外の施設	11名
9	学校開放事業	6名
	無記入	142名

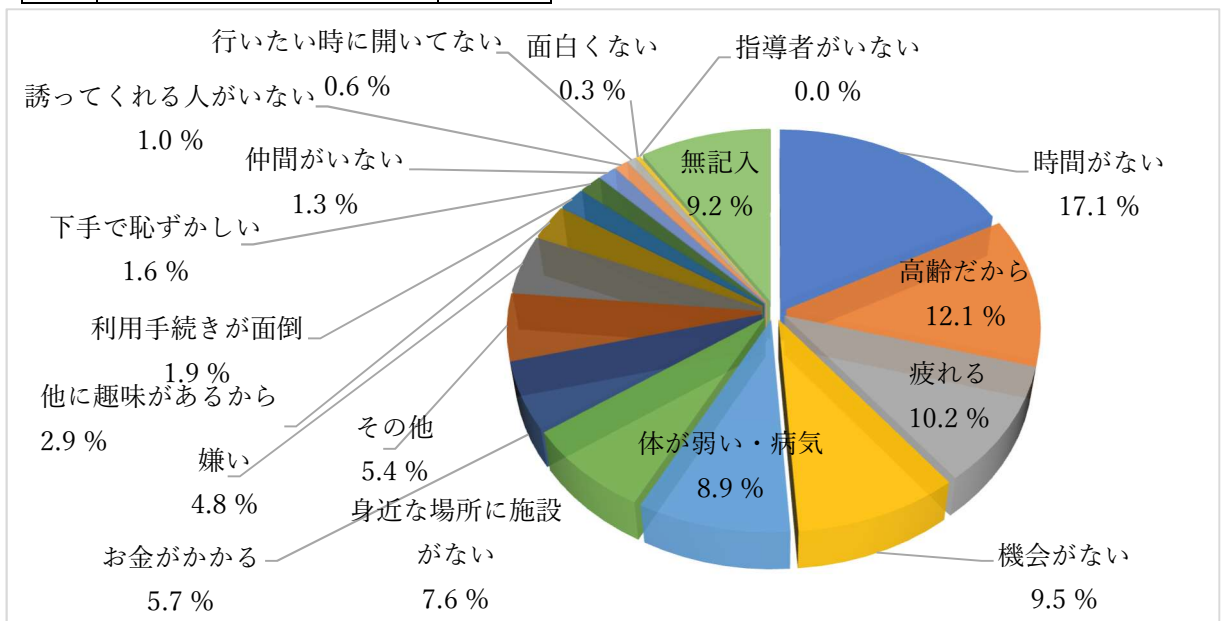


その他  
●道路 ●あいプラザ ●遊歩道  
●自宅周辺

自宅が最も多く、手軽に実施できる場所が人気であると考えられます。

問49 問47で「7. まったく行わない」と回答した方にお聞きします。運動・スポーツを行わない理由は何ですか。1つ選んでください。

No.	項目	回答数
1	時間がない	54名
2	高齢だから	38名
3	疲れる	32名
4	機会がない	30名
5	体が弱い・病気	28名
6	身近な場所に施設がない	24名
7	お金がかかる	18名
8	その他	17名
9	嫌い	15名
10	他に趣味があるから	9名
11	利用手続きが面倒	6名
12	下手で恥ずかしい	5名
13	仲間がいない	4名
14	誘ってくれる人がいない	3名
15	行いたい時に開いてない	2名
16	面白くない	1名
17	指導者がいない	0名
	無記入	29名

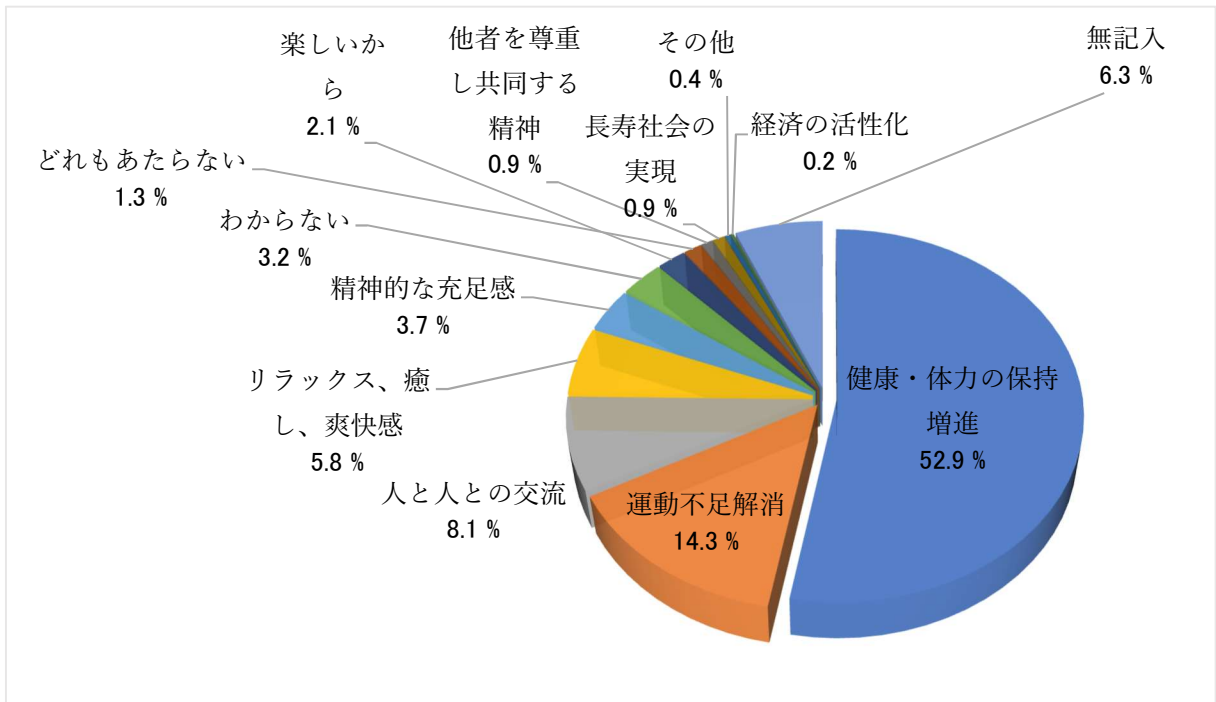


その他

- 子どもが小さいから
- 親の介護

スポーツを行わない理由について一番多かったのは「時間がないから」が17.1%や「高齢だから」が12.2%となっており、取り組みたくても取り組むことができない状況の方が多いことが伺えます。また「疲れがある」や「体が弱い・病気」の回答も多いことから、気軽にできるウォーキング等を普及していく必要があると考えられます。

No.	項目	回答数
1	健康・体力の保持増進	485名
2	運動不足解消	131名
3	人と人との交流	74名
4	リラックス、癒し、爽快感	53名
5	精神的な充足感	34名
6	わからない	29名
7	楽しいから	19名
8	どれもあたらない	12名
9	他者を尊重し共同する精神	8名
10	長寿社会の実現	8名
11	その他	4名
12	経済の活性化	2名
	無記入	58名



その他  
● ストレス発散

運動やスポーツを実施することで、「健康・体力の保持・増進」に寄与している方が52.9%と過半数を超えている状況です。また、「人と人との交流」や「リラックス、癒し、爽快感」の回答があり、つながりや充実感を感じていることが感じられ、多くの市民にとって、スポーツは大切な活動であると考えられます。

## 8. 石巻市の環境

問5 1 あなたは石巻市の環境についてどう思いますか。  
各項目につき1つ選んでください。

ア 多くの自然や生物に恵まれている

No.	項 目	回答数
1	思う	302名
2	どちらかというと思う	400名
3	どちらともいえない	131名
4	どちらかといえばそう思わない	30名
5	思わない	20名
	無記入	34名

イ 公園や道路、宅地などの緑が豊か

No.	項 目	回答数
1	思う	159名
2	どちらかというと思う	383名
3	どちらともいえない	224名
4	どちらかといえばそう思わない	73名
5	思わない	43名
	無記入	35名

ウ 田や畑の農地の緑が豊か

No.	項 目	回答数
1	思う	288名
2	どちらかというと思う	423名
3	どちらともいえない	124名
4	どちらかといえばそう思わない	35名
5	思わない	15名
	無記入	32名

エ 街並みが美しい

No.	項 目	回答数
1	思う	49名
2	どちらかというと思う	181名
3	どちらともいえない	371名
4	どちらかといえばそう思わない	162名
5	思わない	116名
	無記入	38名

オ 空気がきれい

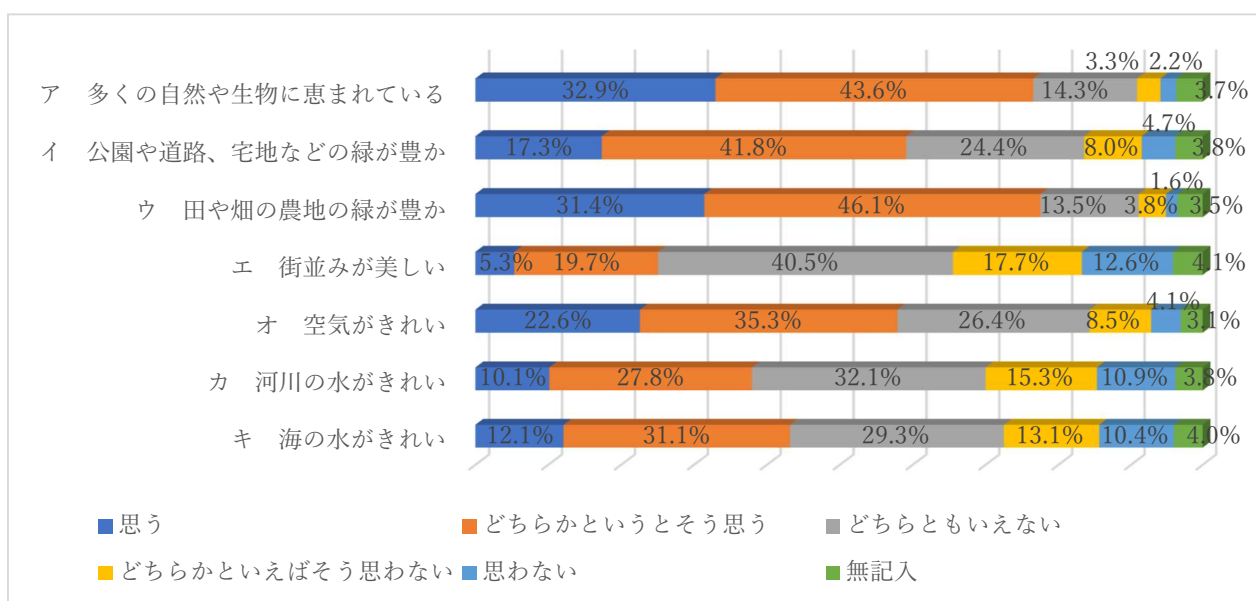
No.	項目	回答数
1	思う	207名
2	どちらかというと思う	324名
3	どちらともいえない	242名
4	どちらかといえばそう思わない	78名
5	思わない	38名
	無記入	28名

カ 河川の水がきれい

No.	項目	回答数
1	思う	93名
2	どちらかというと思う	255名
3	どちらともいえない	294名
4	どちらかといえばそう思わない	140名
5	思わない	100名
	無記入	35名

キ 海の水がきれい

No.	項目	回答数
1	思う	111名
2	どちらかというと思う	285名
3	どちらともいえない	269名
4	どちらかといえばそう思わない	120名
5	思わない	95名
	無記入	37名



ア 多くの自然や生物に恵まれている

多くの自然や生物に恵まれていると思う市民が多い結果となりました。

本市は海、山、川など豊かな自然に囲まれ、そこには多種多様な生物が生息・生育していることから、これらを地域の財産として後世に引き継いでいくため、人の暮らしと自然が調和する地域づくりに取り組んでいく必要があります。

イ 公園や道路、宅地などの緑が豊か

公園や道路、宅地などの緑が豊かだと思える市民が半数以上となりました。

宅地開発や道路整備を進める際には緑化に配慮し、自然環境を保全しながら実施することが求められ、身近に緑とふれあえる環境を創出していく必要があります。

ウ 田や畑の農地の緑が豊か

田や畑の農地の緑が豊かだと思っている市民が多い結果となりました。

自然と調和した良好な景観はふるさとの誇り、そして地域の魅力であることから、その保全や創出に取り組んでいく必要があります。

エ 街並みが美しい

街並みの美しいところだと思わない市民が多い結果となりました。

魅力あるまちづくりに向けて、地域の景観に目を向け、自然や文化、歴史などを学び、体験しながら、地域特性を活かした景観の形成を推進し、魅力あるまちづくりを推進していく必要があります。

オ 空気がきれい

空気がきれいだと思っている市民が半数以上となりました。

市民ひとりひとりが健康な生活を送るために、大気を安全な状態に保つことが必要不可欠です。そのため、日常生活を取り巻く環境について、市民が安心して暮らすことのできる良好な状態の維持に向け「環境負荷の低減」に取り組んでいく必要があります。

カ 河川の水がきれい

河川の水がきれいだと思う市民が、思わない市民を上回る結果となりました。

河川の汚濁は結果として海洋汚染にもつながるため、水環境の監視を行いながら安全で清らかな水の確保に向けて取り組んでいく必要があります。

キ 海の水がきれい

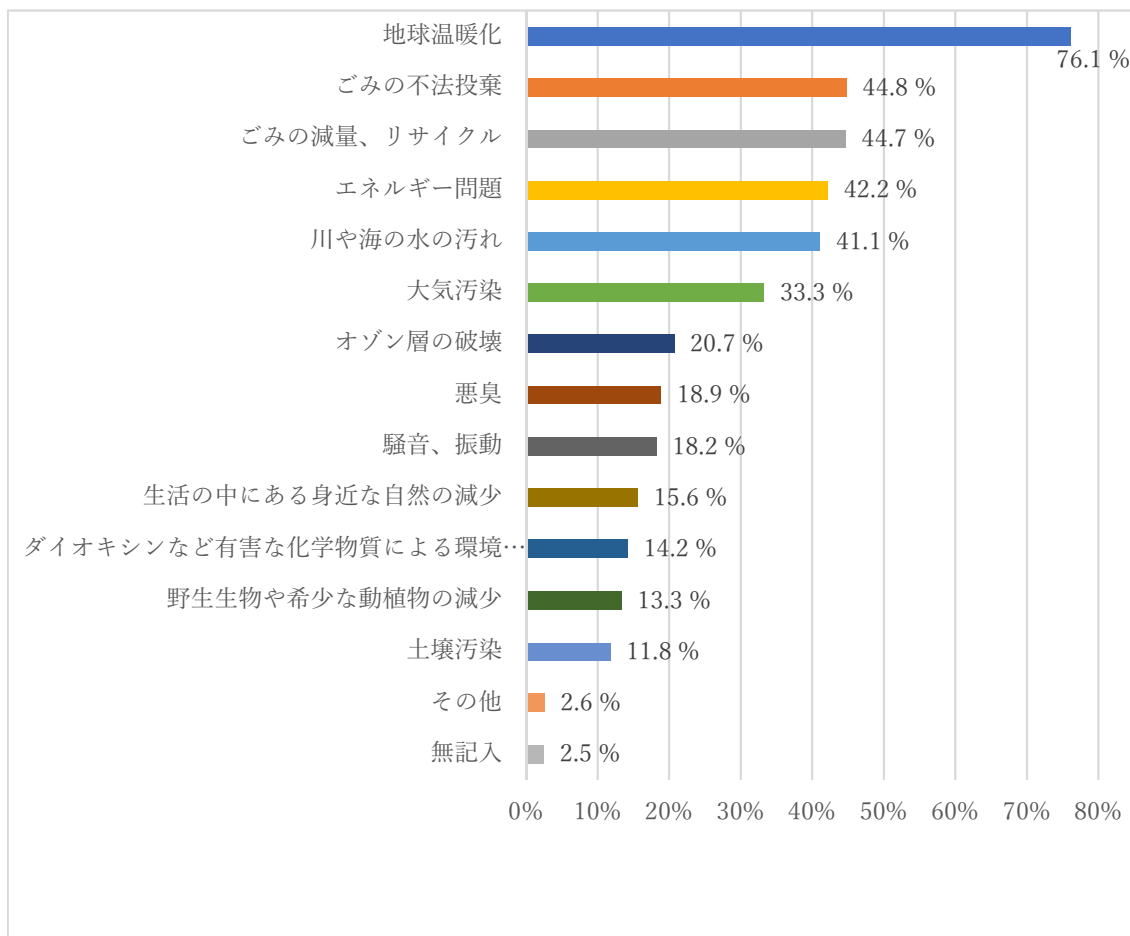
海の水がきれいだと思う市民が、思わない市民を上回る結果となりました。

海の汚濁を防止するために、水環境の監視を行うとともに、水質汚濁防止に関し、普及・啓発を推進していく必要があります。



問5 2 あなたが関心のある環境問題をすべて選んでください。

No.	項目	回答数
1	地球温暖化	698名
2	ごみの不法投棄	411名
3	ごみの減量、リサイクル	410名
4	エネルギー問題	387名
5	川や海の水の汚れ	377名
6	大気汚染	305名
7	オゾン層の破壊	190名
8	悪臭	173名
9	騒音、振動	167名
10	生活の中にある身近な自然の減少	143名
11	ダイオキシンなど有害な化学物質による環境汚染	130名
12	野生生物や希少な動植物の減少	122名
13	土壌汚染	108名
14	その他	24名
	無記入	23名



## その他

- 街がきたない
- 燃えるゴミの日の分別ができていない
- ゴミをあさるカラスによる被害
- 太陽光パネル設置等による森林や景観の破壊
- 山林の間伐
- 羽黒町の墓地跡のみどりを残して欲しい。多くの野鳥がいる
- 原子力発電所の有無から始まる
- これから孫の世代やその次の世代に安心して住める地球環境のためにも、地球規模の負の遺産を新たに創り出さないことが大事。そのためにも原子力に頼った生活を見直す必要がある。ここが動いている限り個人や中小企業レベルでのCO2削減の取り組みは意味をなさないほど影響が大きいと感じ生活している。再び東日本大地震レベルの津波が来たらこの街を離れざるを得ないと誰もが理解しているからこそ、後世のため自分たちが出来ることは何か？いつも市民に問いかけてほしいと思います
- 原発事故処理水の海洋放水
- 喫煙者全国ワースト4位で石巻市は県内トップで実際どこに行ってもタバコ臭い
- 水産加工場で使用している海水による床流し。ネズミ、ゴキブリなど発生し悪臭の原因
- 周囲にくみ取り式便所が複数件あり、悪臭が自宅に流れ込み毎日苦通。そのうちの2件は空き家であるのに臭いが毎日流れ込む。ハクビシンが巣を作ったり、樹木が窓目隠しルーパンにからまってくる。つい最近まではゴミが散乱していた。迷惑をかけている空き家への指導をして下さい
- 花粉症&虫が苦手なので杉とヒノキを減らして欲しい。毎年春秋にカメムシが大量発生し、洗濯物が外に干せない
- 野良猫対策。エサ与えする人がいる為、糞尿と悪臭の清掃。近所の人なので苦情が言えず困っている
- 野生動物の被害の急増
- 外来動植物等への対応
- 公園の草の手入れが少なすぎていつも草がボーボー
- 下水道整備の早期実施
- 大雨による冠水
- 石巻市はくみ取り代が高い
- ケムトレイルという消えない飛行機雲をよく見る

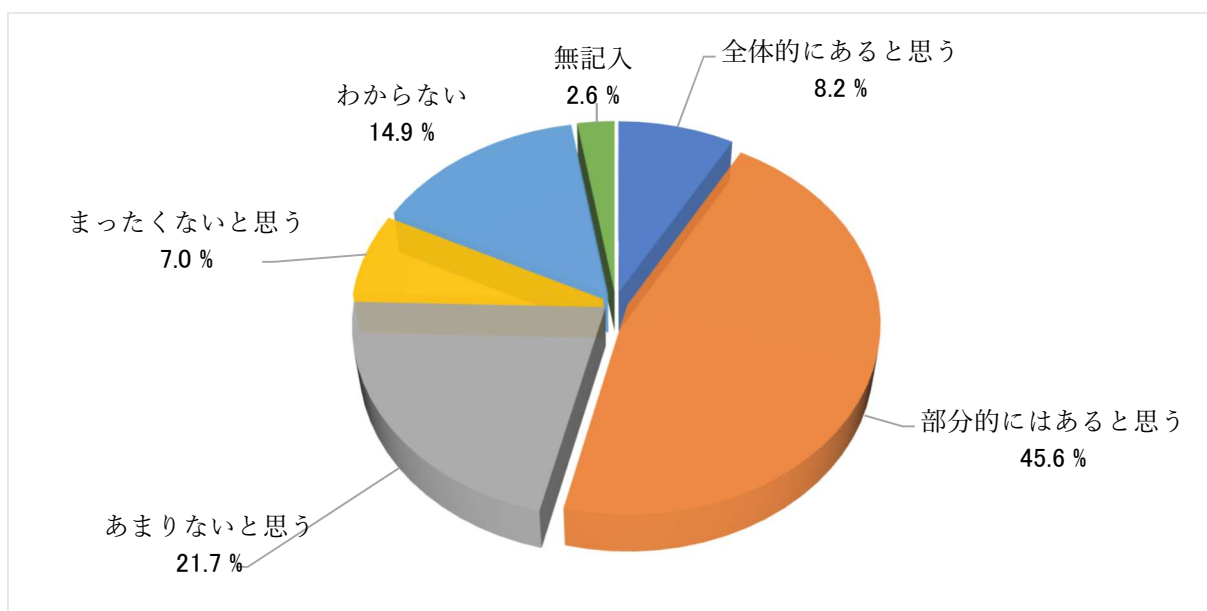
環境問題については、特に地球温暖化やエネルギー問題、ごみの問題や川や海の水の汚れに関心を持っている市民が多い結果となりました。「騒音・振動」、「ダイオキシンなど有害な化学物質による環境汚染」、「土壌汚染」の項目で前年度調査より比率が高くなっており、産業に関連する環境問題について関心が高くなっていることが分かります。

私たちは、これらの環境問題を身近な問題として捉え、ひとりひとりが環境問題について正しい知識を持ち、正しく行動する「環境市民」として生活していくことが強く求められます。

## 9. 地域福祉

問53 あなたの住んでいる地域は困っているときの助け合いや支え合いが行われていると思いますか。1つ選んでください。

No.	項目	回答数
1	全体的にあると思う	75名
2	部分的にはあると思う	418名
3	あまりないと思う	199名
4	まったくないと思う	64名
5	わからない	137名
	無記入	24名

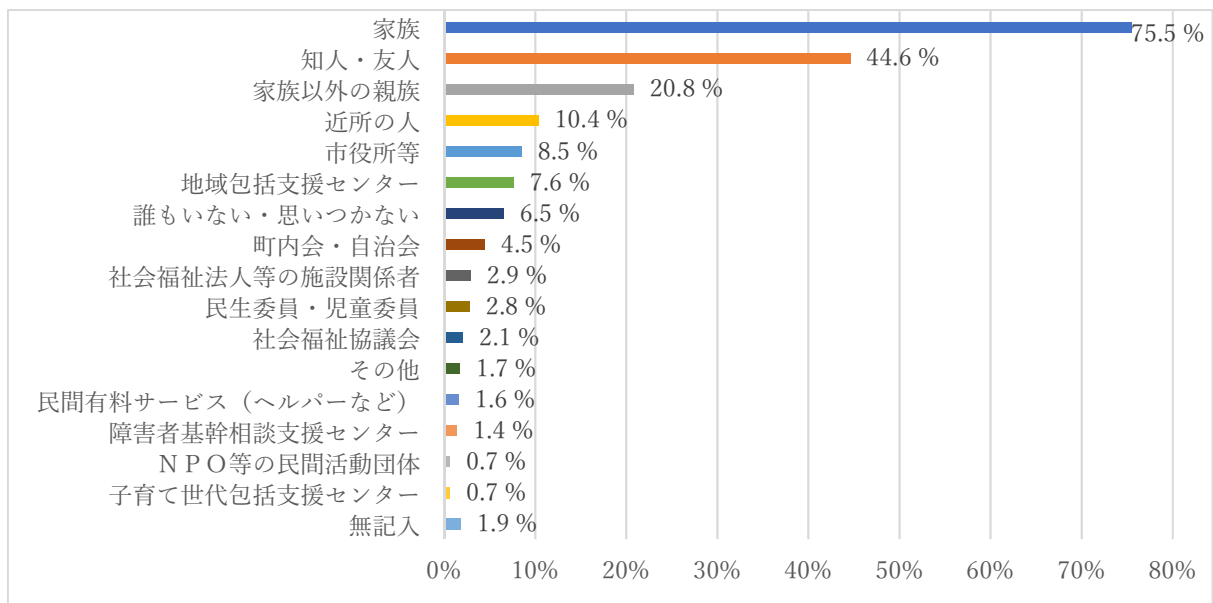


地域で困っているときの助け合いや支え合いが「全体的にあると思う」が8.2%、「部分的にはあると思う」が45.6%であり、助け合いや支え合いが行われていると思っている人は53.8%となっています。一方、「あまりないと思う」が21.7%、「まったくないと思う」が7.0%であり、合わせて28.7%となっています。

関係性の希薄化等により、身近な地域の助け合いや支え合いが行われていないと感じる人が増えています。困っている人を地域住民が互いに助け合い、支え合うという貴(とうと)い価値観が失われないよう、地域住民による互助活動の促進や次代の担い手である子ども達に対する福祉教育等が重要であると考えます。

問5 4 あなたは日常生活の困りごとを誰に相談しますか。あてはまるものをすべて選んでください。

No.	項目	回答数
1	家族	692名
2	知人・友人	409名
3	家族以外の親族	191名
4	近所の人	95名
5	市役所等	78名
6	地域包括支援センター	70名
7	誰もいない・思いつかない	60名
8	町内会・自治会	41名
9	社会福祉法人等の施設関係者	27名
10	民生委員・児童委員	26名
11	社会福祉協議会	19名
12	その他	16名
13	民間有料サービス（ヘルパーなど）	15名
14	障害者基幹相談支援センター	13名
15	NPO等の民間活動団体	6名
16	子育て世代包括支援センター	6名
	無記入	17名

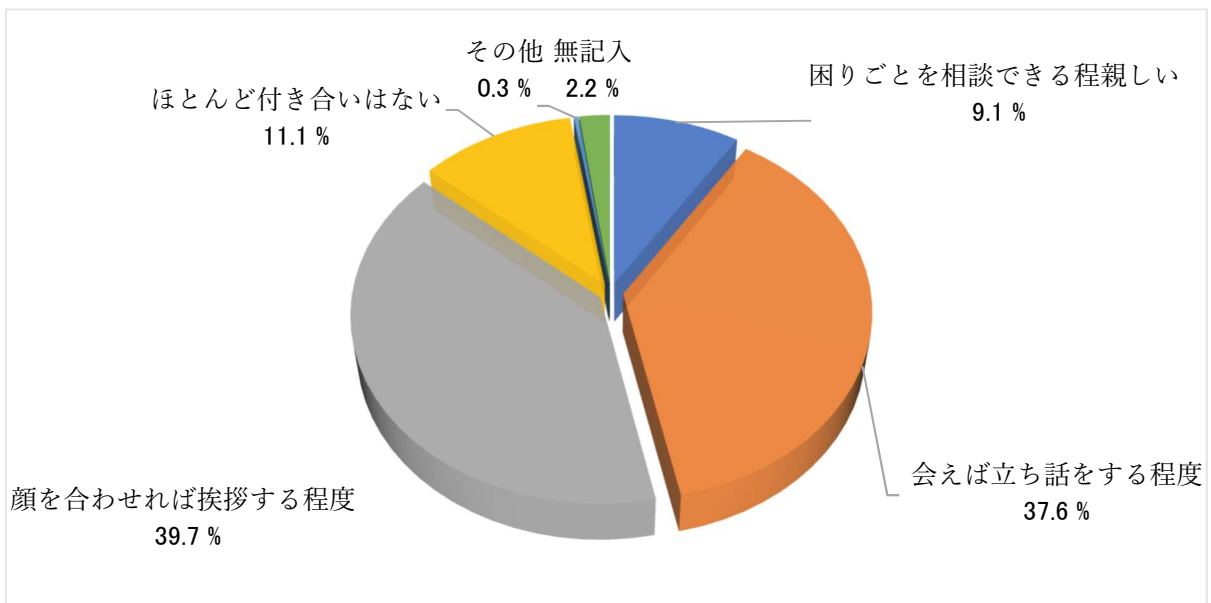


日常生活の困りごとを誰に相談するかという問いでは「家族」が75.5%で最も多く、次いで「知人・友人」が44.6%、「家族以外の親族」が20.8%、「近所の人」10.4%と続いています。家族以外の親族や近所の人への相談が若干増えています。

一方、「誰もいない・思いつかない」が6.5%となっていることから、地域での孤立防止のための対策や各種相談窓口の周知について、市、関係機関その他の多機関が連携し、多様な媒体を通じて周知に努める必要があります。また、「家族」に相談する人が少しずつ減っており、親が共働きで子どもと過ごす時間が少ない現状が窺えることから、今後は、家族の絆を守るための施策の検討が必要であると考えます。

問55 ご近所付き合いについてお聞きします。あなたは、ご近所とどの程度お付き合いをしていますか。1つ選んでください。

No.	項目	回答数
1	困りごとを相談できる程親しい	83名
2	会えば立ち話をする程度	345名
3	顔を合わせれば挨拶する程度	364名
4	ほとんど付き合いはない	102名
5	その他	3名
	無記入	20名



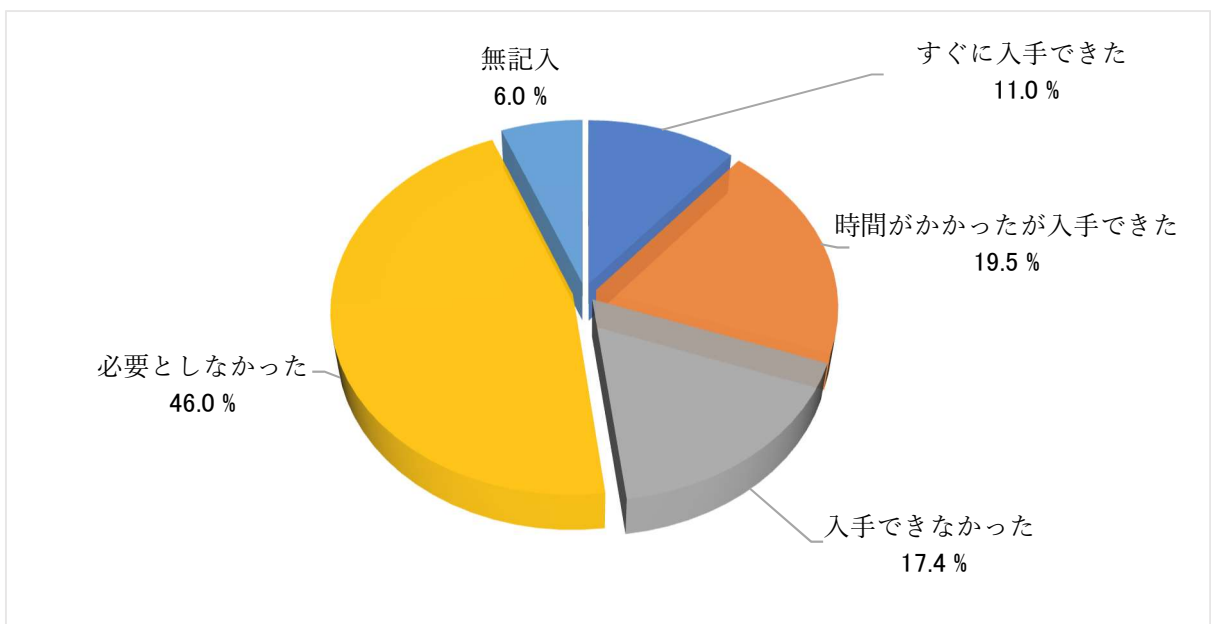
ご近所付き合いについて、「困りごとを相談できる程親しい」が9.1%、「会えば立ち話をする程度」が37.6%と、ご近所の人とつながりのある人が46.7%となっています。

「顔を合わせれば挨拶する程度」(39.7%)の方は、近所の人とお付き合いまでには至っていないものの、ご近所同士であると互いに認識しており、会話や親しいお付き合いに発展する可能性もあります。

一方、「ほとんど付き合いはない」が11.1%に達しており、今後、このような方々が地域での孤立を深めていくことのないよう、地域コミュニティや学習活動、ボランティア活動への参加など、社会参加を促進するための支援策が必要であると考えます。

問56 あなたは、地域の助け合いやボランティア活動に関する情報や知識を必要としたときに、入手することができましたか。1つ選んでください。

No.	項目	回答数
1	すぐに入手できた	101名
2	時間がかかったが入手できた	179名
3	入手できなかった	160名
4	必要としなかった	422名
	無記入	55名



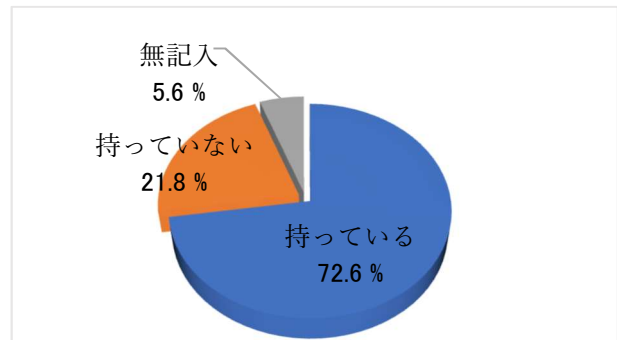
地域の助け合い、ボランティア活動に関する情報や知識の入手について、「すぐに入手できた」が11.0%、「時間がかかったが入手できた」が19.5%で、合わせて30.5%の人が入手できたと回答しています。

一方、「入手できなかった」が17.4%と高くなっていることから、市や関係機関その他の多機関が連携し、多様な媒体を通じて周知に努める必要があると考えます。

問57 あなたは普段の生活で生きがいを持っていますか。1つ選んでください。

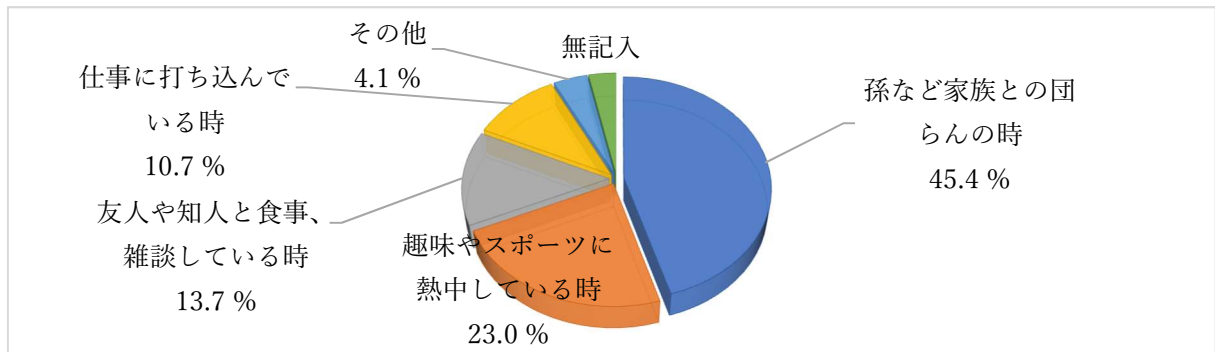
(60歳以上対象)

No.	項目	回答数
1	持っている	366名
2	持っていない	110名
3	無記入	28名



問58 問57で「1. 持っている」と回答した方にお聞きします。どんな時に生きがいを感じますか。1つ選んでください。(60歳以上対象)

No.	項目	回答数
1	孫など家族との団らんの時	166名
2	趣味やスポーツに熱中している時	84名
3	仕事に打ち込んでいる時	50名
4	友人や知人と食事、雑談している時	39名
5	その他	15名
	無記入	12名



その他

- 孫など家族との団らんの時 ● ペットとのふれあい ● 震災伝承等の社会貢献活動
- 仕事に打ち込んでいる時 ● 趣味や旅行等 ● テレビ鑑賞 ● 健康づくり

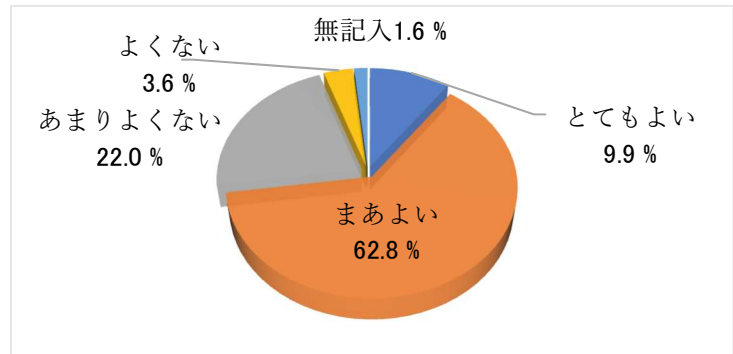
高齢者の生きがいについて、「持っている」と回答した方が72.6%を占めており、昨年の70.1%に比べて2.5ポイント増加しました。

また、「持っている」と回答した方の中のうち、どんな時に生きがいを感じますか。という設問に対して、「孫など家族との団らんの時」が45.4%と半数近くを占めて、次いで「趣味やスポーツに熱中している時」が23%、「仕事に打ち込んでいる時」の13.7%、友人や知人と食事、雑談している時の10.7%となりました。今後も高齢者が生きがいを持って生活していくことができるように、生きがいや健康づくり事業をすすめていく必要があります。



問59 あなたの健康状態について、1つ選んでください。

No.	項目	回答数
1	とてもよい	91名
2	まあよい	576名
3	あまりよくない	202名
4	よくない	33名
	無記入	15名



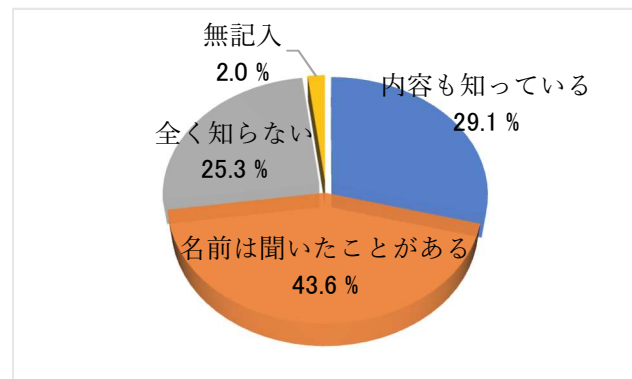
健康状態について「とてもよい」、「まあよい」、合わせて72.7%の方が健康状態は良いと回答しています。

一方で、「あまりよくない」、「よくない」、合わせて25.6%の方が健康状態に不安を抱えています。

このことから、誰もが自分に合った生涯を通じた健康づくりを地域全体で推進していくことが必要であると考えます。

問60 あなたは、「成年後見制度」を知っていますか。1つ選んでください。

No.	項目	回答数
1	内容も知っている	267名
2	名前は聞いたことがある	400名
3	全く知らない	232名
	無記入	18名

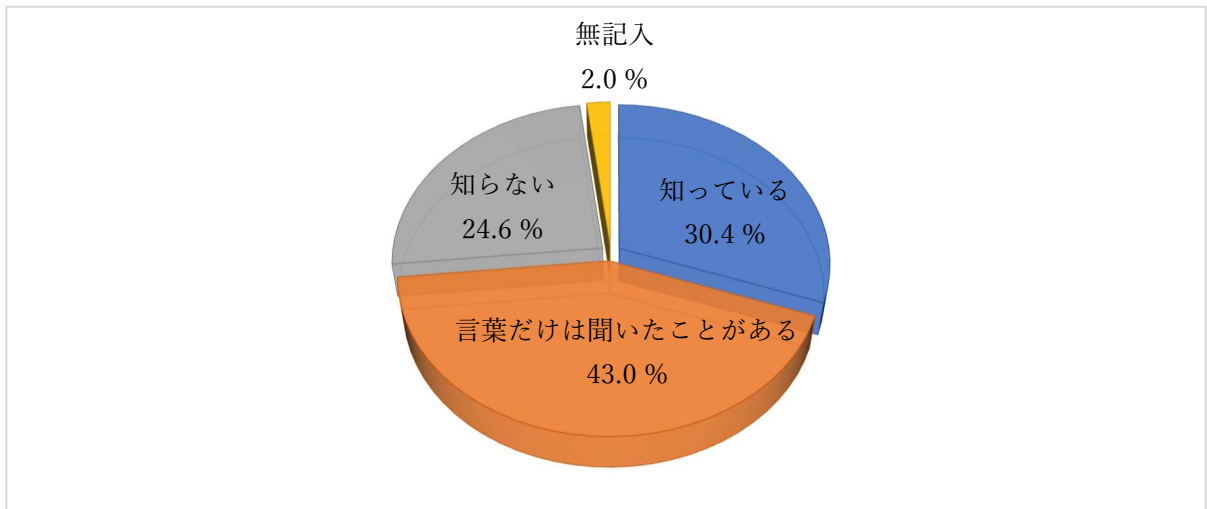


「成年後見制度」について「内容も知っている」と回答した方が29.1%であり、昨年の26.3%に比べて2.8ポイント増加したことからこの制度が浸透してきていることが伺えます。

今後も認知症などによって、物事を判断する能力が十分ではない高齢者に対して、成年後見制度の活用を支援することで高齢者福祉の増進を図っていきます。

問61 あなたは、障害のある・なしにかかわらず、誰もが社会の一員としてお互いを尊重し、支え合って暮らすことを目指す「共生社会」という考え方を知っていますか。1つ選んでください。

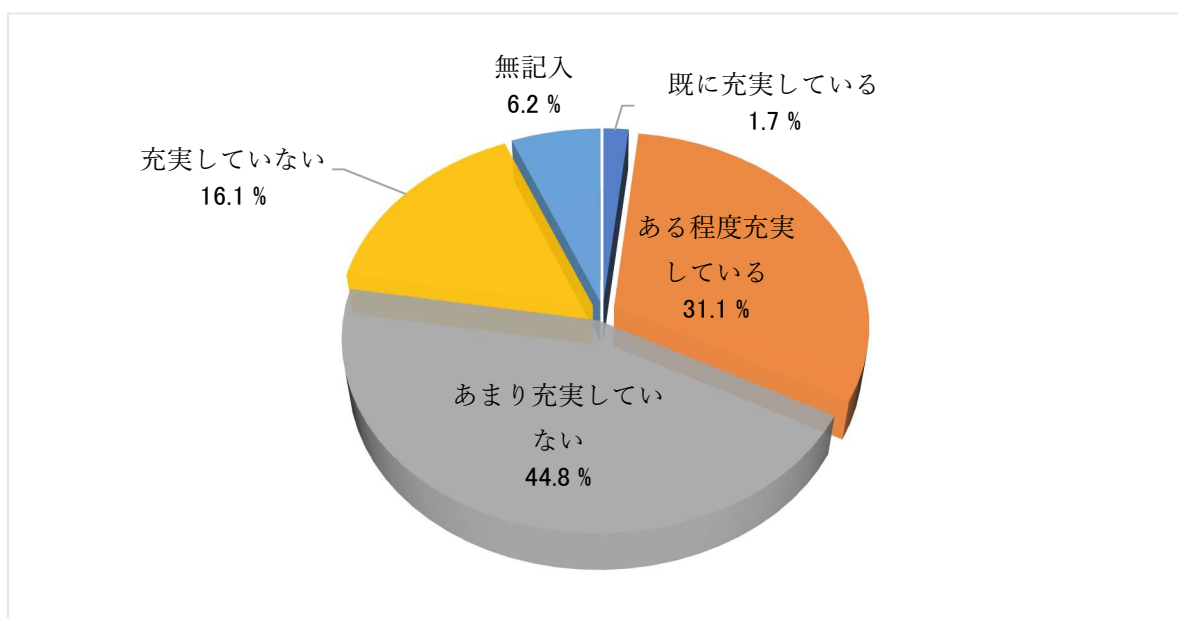
No.	項目	回答数
1	知っている	279名
2	言葉だけは聞いたことがある	394名
3	知らない	226名
	無記入	18名



「言葉だけは聞いたことがある」と回答された方が43.0%と最も多く、次に多いのは考え方を「知っている」と回答された方の30.4%となります。「知らない」と回答された方は24.6%となっており、「言葉だけは聞いたことがある」と回答された方と合わせると67.6%の方が「共生社会」についての理解が浸透されていないこととなります。このことから、「共生社会」の実現に向けて、障害がある人もない人も互いに人格と個性を尊重し合い、支えながら暮らしていくという考え方を浸透させていくための啓発活動が必要であると考えられます。

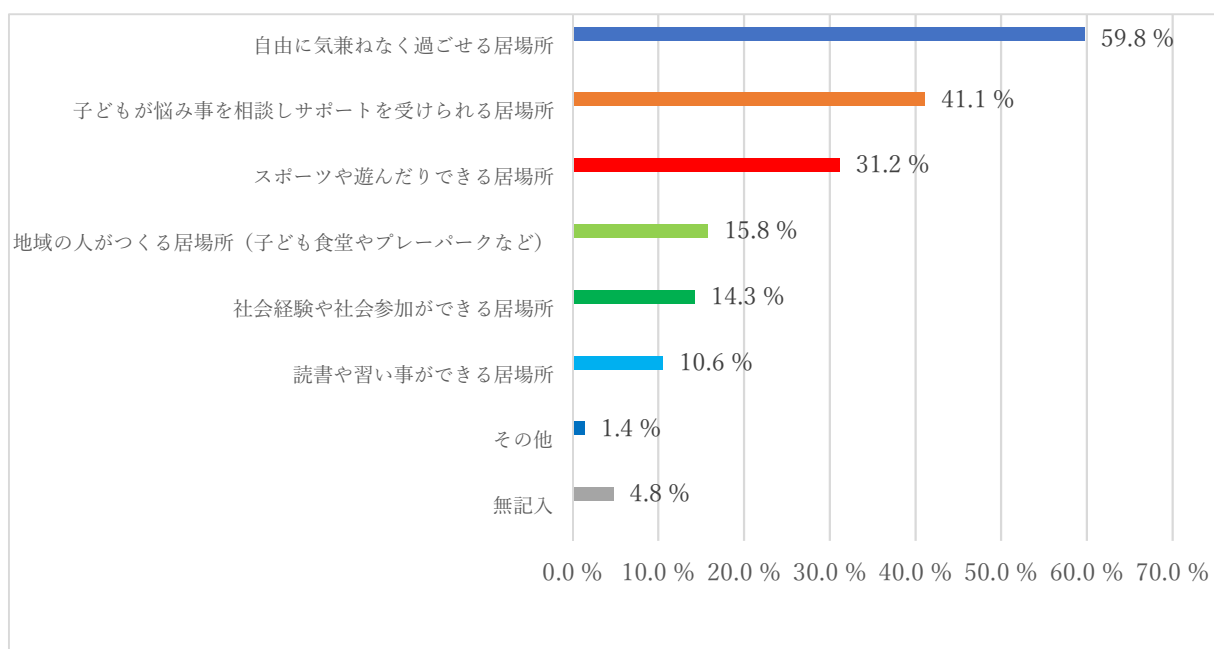
問62 あなたは、石巻市の子どもにとって、家でも学校でもない居場所（第三の居場所）は充実していると思いますか。1つ選んでください

No.	項目	回答数
1	既に充実している	16名
2	ある程度充実している	285名
3	あまり充実していない	411名
4	充実していない	148名
	無記入	57名



問63 今後必要な子どもの居場所（第三の居場所）はどのような場所だと思いますか。特に必要と思うものを2つまで選んでください。

No.	項目	回答数
1	自由に気兼ねなく過ごせる居場所	548名
2	子どもが悩み事を相談しサポートを受けられる居場所	377名
3	スポーツや遊んだりできる居場所	286名
4	地域の人がつくる居場所（子ども食堂やプレーパークなど）	145名
5	社会経験や社会参加ができる居場所	131名
6	読書や習い事ができる居場所	97名
7	その他	13名
	無記入	44名



子どもの居場所について「既に充実している」「ある程度充実している」と回答した方が合わせて約3割となり、昨年の調査と比較し、若干改善した結果となりました。

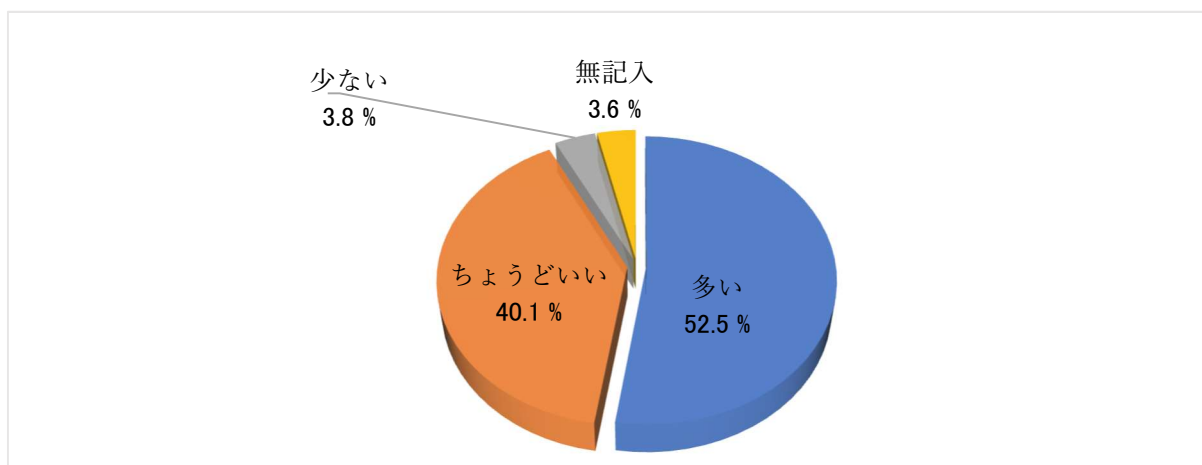
今後必要な子どもの居場所については「自由に気兼ねなく過ごせる居場所」が最も多く、次いで「子どもが悩み事を相談しサポートを受けられる居場所」が多く挙げられました。

子どもにとって、安全で安心して過ごせる多くの居場所を持ちながら様々な学びや社会で生き抜く力を得るための糧となる多様な体験活動や外遊びの機会に接することは、自己肯定感を高め、幸せな状態で成長するために重要とされており、引き続き子どもの居場所の拡充に努めていく必要があります。

## 調査の印象

問 調査表の質問数（63問）について、どう思いましたか。1つ選んでください。

No.	項目	回答数
1	多い	481名
2	ちょうどいい	368名
3	少ない	35名
	無記入	33名



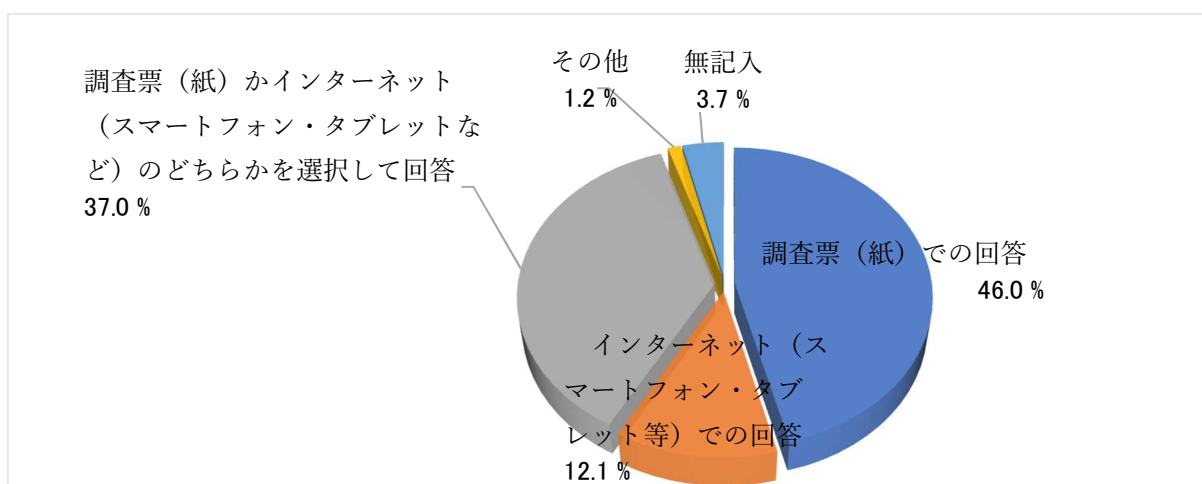
「多い」と回答した方の割合が5割を超える結果となりましたが、前回から質問数を減少したことにより（80問→63問）「多い」と回答した方が7.7ポイント減少しました。

調査項目は市の各種施策や計画の指標になっているものもあり、市民の意見を市政に反映させる重要な資料とさせていただいております。

引き続き、調査項目の精査を行い、回答いただく皆様の負担を少しでも軽減するよう、設問数の見直しに努めてまいります。

問 調査に回答する際は、どの手法が望ましいですか。1つ選んでください。

No.	項 目	回答数
1	調査票（紙）での回答	422名
2	インターネット（スマートフォン・タブレット等）での回答	111名
3	調査票（紙）かインターネット（スマートフォン・タブレットなど）のどちらかを選択して回答	339名
4	その他	11名
	無記入	34名



その他

- 個人特定されなければどんな方法でも
- 高齢者にとっては負担となる
- 直接訪問、面談
- 廃止にしてほしい
- 自由意見を書く欄を設けてほしい

今回からインターネットでの回答方法を導入したところ、実際に回答者全体の18.3%がインターネットで回答していました。その結果、「調査票（紙）かインターネット（スマートフォン・タブレットなど）のどちらかを選択して回答」と回答した方が前回より10.8ポイント増加しました。

世代別では、59歳以下では「調査票（紙）かインターネット（スマートフォン・タブレットなど）のどちらかを選択して回答」が多く、その一方、60歳以上は「調査票（紙）での回答」が多い結果となりました。

様々な世代の方が回答しやすいよう、調査票（紙）とインターネットの両方で回答できる方法を実施しておりますが、引き続き調査方法を検討してまいります。